

中学校 2023年度生

シラバス



	学年	組	番	氏名
中学	1年			
	2年			
	3年			

同志社香里中学校

I. はじめに

本校は1951(昭和26)年に学校法人同志社傘下の中等教育機関として誕生しました。同志社は「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の3つを建学の精神を掲げており、本校もそれらを体現する教育活動を行ってきました。それをより明確にするため入学者の受け入れ方針、教育課程編成・実施方針、卒業認定の方針を簡潔に記した「同志社香里中学校・高等学校 教育方針(スクールポリシー)」を2021年5月に策定しました。

本校は併設の同志社香里高等学校を経て、95%以上の生徒が学内推薦制度を利用して同志社大学・同志社女子大学へ進学していますので、中・高・大の10年を見通した教育が求められています。そのため本校のカリキュラムは将来の多様な進路に対応できるよう、高校・大学での学びの基礎となる学力の定着を目指しています。一方、2030年の「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて、すべての人々が対話を通じて利害関係を調整し、「持続可能な世界」の実現を図ることが求められています。そのためには知識の獲得はもちろんのこと、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力等の技能のほか、生涯に渡り学び続ける姿勢や豊かな人間性等を身に付けることが必要不可欠です。

2021年度に学習指導要領が全面改訂されたのを機に、本校でもカリキュラム(教育課程)を編成し直し、このシラバス(授業計画)を作成しました。週6日制で35時間確保することにより、学びにゆとりをもたせて基礎学力の充実を図ったうえで、高度な学習へと発展させていく構成になっています。さらに皆さんは高等学校の「総合的な探究の時間」において、自らが問いを立てて調べ、分析し、見解をまとめて発表する探究活動に取り組むこととなりますので、その基礎となる方法を身につけるための体験的な学習活動にも取り組むことになっています。

シラバスに記されている学習内容をあらかじめ確認し、これからの勉強の目標を立ててください。その積み重ねが将来の「夢」の実現に繋がるはずです。そのうえ課外活動にも積極的に参加し、同志社香里ならではの豊かな学園生活を過ごしてほしいと願っています。

II. シラバス(授業計画)の活用について

- 1) シラバスとは、中学校3年間でどのようなことを学び、どのようなことができるようになるか(ならなければならないか)を示したもので、教科書や副教材、学習目標、到達目標、学習方法、学習内容とその実施時期、成績の評価方法などが記されています。
- 2) 日頃の学習を計画的、効率的に進めるためにシラバスを活用して学習計画を立てましょう。予習や復習時にもシラバスを用いて、これから学習する単元やすでに学習した単元内容等を確認しましょう。毎日の学習時間を確保し、学ぶ習慣と基礎学力を身に付けるようにしましょう。

スクールポリシー	2
国語	3
社会	11
数学	29
理科	41
英語	52
音楽	57
美術	62
保健体育	65
技術・家庭	72
聖書	81
リベルタス(総合的な学習の時間)	85

※ 学習内容や進度に変更等がある場合は、授業担当者より説明があります。

同志社香里中学校・高等学校 教育方針（スクールポリシー）

同志社は、1875年の同志社英学校開校以来、今日に至るまで「良心の全身に充満したる丈夫(ますらお)」を世に送り出すことを目指してきたキリスト教主義学校です。私たち同志社香里中学校・高等学校は、その同志社の精神を唯一大阪で体現する学校として、約70年の歴史を重ねてきました。生徒が本校での学びを通じて広い視野と深い思考力、篤い他者貢献の志を備え、世界へと歩み出していってくれることを願い、日々の教育活動を行っています。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

- ・ 知的好奇心を持って、多様な学びに積極的に挑戦していける生徒
- ・ 自分と異なる他者と関わり、違いを受け入れつつ、自らの個性を伸ばしていこうと志す生徒
- ・ キリスト教主義教育の本質を理解し、自他を愛する心を育もうと望む生徒

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施方針）

- ・ リベラルアーツの精神に則って幅広い学びを提供し、基礎的な知識と思考力を身につけることを目指します。
- ・ 興味を持ったことに集中して探究できる、指導体制と環境を整えます。
- ・ チームティーチングや補講、各種検定試験受検など、きめ細かい指導で、確かな基礎学力を養います。
- ・ 情報収集、資料整理、課題設定などの手法に習熟できるよう、中高6年間を通して調べ学習やプレゼンテーション、探究的な教育活動を段階的に行います。
- ・ 実物教育、ICT教材、社会人講師、外部コンクールへの応募、高大連携講座など、多様な学びの機会を積極的に取り入れることで、知的好奇心を育み、広く社会で通用する論理的思考力、表現力の涵養を目指します。
- ・ 海外修学旅行、多数の語学研修プログラム、交換留学等を実施し、グローバルな価値観、コミュニケーション能力、深い他者理解を促す教育を行います。
- ・ 日々の礼拝や聖書の授業、宗教行事等を通して、キリスト教精神に則った自律心と、他者を支える心を育みます。
- ・ 単にリーダーシップを育むのではなく、他者を支え、弱さを抱えた人に寄り添い、互いに許し合うことのできる、キリスト教の愛の精神を涵養します。そして、それらを実践する力を備えた「良心を手腕に運用する人物」となるべく、学級活動や部活動を展開します。
- ・ 他者と協働できつつも、互いの個性を尊重し、周囲に流されない独立心を持つ「自治自立」の人となるため、学校行事や課外活動を通じて、様々な人との関わり方、自らの活かし方を学びます。

ディプロマポリシー（卒業認定の方針）

- ・【自治自立】周囲に流されず、責任感を持って「良心を手腕に」行動する力
- ・【倜儻不羈】人と違うことを恐れない、個性や独立心豊かな人格
- ・【利他の精神】損得に囚われなくて「世に与えんと欲する」、広く人に奉仕する心
- ・【学問、知的好奇心】自ら知識や教養を身につけ、それらを活用して学び問い続ける姿勢
- ・【国際精神】多様な価値観を知ったうえで、自らの指針を見出し、広い世界へ向かって行動できる主体性

2021年5月26日制定

中学校 国語科 シラバス

3年間のねらい 学習目標

国語の授業ではいろいろな言語能力を同時進行で総合的に学習することになる。たとえば、「作品の感想を発表する」という学習行為一つをとっても、「読む」「話す」「聞く」という三つの言語活動が含まれている。そういう学習行為を繰り返すことによって、高い学力を習得してほしいと願っている。具体的には以下ようになる。

文学的文章での目標は「読解力」をつけることだ。作品を客観的に分析する方法などを学び、「行間を読む」ことはもちろん、象徴・対比などの表現や作品の構成に注目して主題に迫るなど、自分の力で作品を読解できるようになることを目指している。

作品を客観的に読む一方で、文学的文章を通じて作者・登場人物の考え方や生き方に触れる。授業の中で、それに対するさまざまな考え方も知る。それらを通して、自分だけの世界に閉じこもらず、他人を理解したり、いろいろな角度から物事を考えたりできるよう、精神的に成長することも大切だと考えている。

説明的文章では、文章の要旨やその構成を押さえることを目標としている。いろいろな分野の文章に触れることで、知識・視野を広げることも大切だ。文章を読んでいくなかで、根拠を明らかにして自分なりに解釈し、それを他人に納得させる力も身につけていく。また、文章を無批判に受け入れるだけでなく、筆者の論理を検証したり、自分の意見を持ったりする練習も行う。

古典を学ぶ目的は、それを深く読み味わうことによって過去とつながることである。いろいろな分野の古典を読むことによって、古人の習慣や考え方に触れる。そこに現代人と共通の感覚を見つけることによって、古典に対する親しみや共感を持ってほしい。

現代では、文章の読解力だけでなく、表現力の向上も求められている。それゆえ、文章の構成を意識しながら、いろいろな角度から物事をとらえ、最終的に自分の主張を述べることも目標に挙げたい。そのために、段階的に学年別の到達目標を設定している。自分を表現することで、自分を客観的に見たり新しい自分を発見したりできればと考えている。

第1学年 国語 (週3時間)	教科書	三省堂 『現代の国語 1』 三省堂 『現代の書写 1・2・3年』
	副教材	浜島書店 『国語便覧 (大阪府版)』、漢字テキスト、文法テキスト

学習到達目標

中学1年生の国語においては、基礎学力と学習技能を身につけることを目標とする。

- 1, 漢字 中学1年生の漢字と、中学2年生の漢字の一部を先取りして学習する。書き取り練習を重ね、正確に書く力とともに、美しく速く書く力を身につける。
- 2, 文学的文章 多様な表現を味わい、そこから情景や心情を深く読み取るとともに、主題を読み取る力を育てる。
- 3, 説明的文章 文章の展開をとらえ、筆者の見方や考え方を理解するとともに、自らの考えを持つ意欲を養う。
- 4, 古典的文章 古文においては五十音図と歴史的仮名遣い、漢文においては返り点の読み方・付け方を理解し、古典を読むための基礎的な知識を身につける。また、音読・暗唱することで古典のリズムに触れ、興味・関心を育てる。
- 5, 文法 言葉の単位、文の成分、品詞の分類、動詞の活用についての知識を習得する。
- 6, 読書 短編の作品を中心に読み、読書の習慣をつくる。
- 7, 書写 文字を書くときの正しい姿勢を身につけ、楷書の書き方を学ぶ。
中学1年生の表現では、まず書き言葉と話し言葉の違い、主述の正しい文章の書き方、原稿用紙の使い方を学習し、わかりやすい文章を書くための基礎を身につける。その上で、スピーチの仕方、読書感想文・手紙・意見文の書き方を学習して、様々な種類の文章を書き、表現の幅を広げる。
- 8, 主体的に学ぶ力 他者の意見を取り入れながら意見を主張し、言葉を通して積極的に他者と関わる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	実社会に必要な国語の知識や技能を十分に身につけ、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を十分に身につけ、他者に自分の思いや考えを分かりやすく正確に伝えている。	言葉がもつ価値に気づき、読書を通じて自己を向上させ、言葉を通して積極的に他者や社会に関わっている。

学習方法

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要な物を準備し、着席しておく習慣を付ける。

授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、授業の流れに沿って学習できるようにする。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。

授業時に与えられた課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出することを心掛ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<国語 週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 導入	<ul style="list-style-type: none"> 正しい学習態度(漢字スキル・百人一首等)を確立する。 授業に必要な技能(ノートの取り方・発言の仕方・音読の仕方等)を習得する。 自ら進んで発表するとともに、周囲の意見を聞き、自分の意見をまとめる。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 言語についての知識・理解・技能 <p>【評価方法】</p> <p>1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力などをみる問題も出題する。</p> <p>2. 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の5項目について評価する。 (2) 課題などの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。</p>
	2. 詩	<ul style="list-style-type: none"> 詩を読んでどのような発見があったかを話し合う。 	
	3. 説明文	<ul style="list-style-type: none"> 事実と意見を読み分ける。 大段落ごとに文章を要約し、要旨をとらえる。 	
	4. 小説	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の視点を理解し、それらがどのように展開されているか読み分ける。 	
	5. 古文	<ul style="list-style-type: none"> 五十音図についての理解を深め、歴史的仮名遣いを習得する。 古文を音読・暗唱し、古典のリズムに触れる。 物語の全体を理解し、古文に興味を持つ。 	
	6. 漢文	<ul style="list-style-type: none"> 漢文を音読・暗唱し、漢文のリズムや表現に慣れる。 漢文を読み、用法や意味を理解する。 返り点の読み方、付け方を習得する。 	
	7. 文法	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の単位、文節相互の関係、文の成分を学習する。 	
	8. 漢字	<ul style="list-style-type: none"> 教科書準拠のドリルを用い、中学1年の漢字を習得する。 	
	9. 読書	<ul style="list-style-type: none"> 短編を中心に読書し、本を読む習慣をつける。 	
	10. 書写	<ul style="list-style-type: none"> 文字を書くときの姿勢や基本的な運筆を学習する。 	

2 学 期	1. 小説	・登場人物の関係に注意し、出来事の展開、構成の仕方、表現の特徴について自分の考えをまとめる。
	2. 説明文	・文章の構成や要旨をとらえ、目的や必要に応じて要約する。 ・事実と意見を区別し、筆者の見方や考え方を理解する。
	3. 小説	・人物の心情や行動の意味を理解し、作品の大きな構成や主題をとらえる。 ・自ら進んで発表するとともに、周囲の意見を聞き、自分の意見をまとめる。
	4. 文法	・品詞の分類・活用のない自立語を学習する。
	5. 漢字	・教科書準拠のドリルを用い、中学1年の漢字を習得する。
	6. 読書	・短編を中心に読書し、本を読む習慣をつける。
	7. 書写	・楷書と仮名を調和させて書くことを学習する。
3 学 期	1. 文法	・動詞の活用を学習する。
	2. 小説	・創意工夫が施された表現から、場面設定や人物の心の動きを理解する。 ・自ら進んで発表するとともに、周囲の意見を聞き、自分の意見をまとめる。
	3. 説明文	・筆者が提起する問題を向き合い、自分の視点や考え方を広くする。
	4. 漢字	・教科書準拠のドリルを用い、中学1年の漢字を習得する。
	5. 読書	・短編を中心に読書し、本を読む習慣をつける。

第1学年 国語表現 (週1時間)	教科書	なし
	副教材	浜島書店 『国語便覧 (大阪府版)』

学習到達目標

原稿用紙や手紙の書き方を身につけ、正確な文章を書けるようにする。意見文や読書感想文などの比較的長い作文においても自分の意見をまとめる力を育てる。また、スピーチなどの発表を通して、効果的な情報発信の方法を身につける。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	原稿用紙の使い方を理解し、文章を書くのにふさわしい言葉を使うことができる。また、短時間のスピーチでの効果的な話し方を理解し、実践している。	主語や述語のねじれがない文章を書く力を身につけ、他者に自分の思いや考えを分かりやすく正確に伝えることができる。	蔵書検索機能や図書分類法の特徴を理解し、幅広い読書を心掛けている。また発表において聞き手に伝わりやすいよう工夫したり、他者の意見を積極的に聞いたりする姿勢を持って

			いる。
--	--	--	-----

学習方法

1学期は原稿用紙・手紙の書き方について学び、文章の書き方を確認する。また図書館の利用方法についても理解を深める。2学期は1学期で学んだことを生かして読書感想文等に取り組む。また、発表を通して効果的に話す能力を養う。3学期は1, 2学期に学んだ文章の書き方、発表の仕方をふまえて、意見文やブックトーク等に取り組む、次年度の総合的な学習へとつながる力を養う。

<表現 週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 導入 2. プリント教材 3. 原稿用紙の使い方 4. 手紙の書き方	<ul style="list-style-type: none"> 正しい学習態度（音読・姿勢等）を確立する。 主述や修飾の関係が正しい文を書く。 書き言葉と話し言葉の違いを理解し、書き言葉を正しく使えるようになる。 常体と敬体の違いを理解し、統一した文体で書くことができる。 手紙の形式を学習し、状況に応じた手紙を書く。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等 <p>【評価方法】</p> 提出物の提出状況と授業態度等
2学期	1. 読書感想文等 2. スピーチ	<ul style="list-style-type: none"> マインドマップを使って、書く内容を整理する。 原稿用紙の使い方を理解し、推敲する。 決められた時間に自分の考えをまとめ、スピーチを行う。 	
3学期	1. ブックトーク 2. 意見文 3. 暗唱詩文集	<ul style="list-style-type: none"> 本の紹介ポップを書き、それをもとに決められた時間に自分の考えをまとめ、スピーチを行う。 班で協力して、スピーチを行う。 与えられた材料について自分の考えを持ち、マインドマップを使って、その考えをまとめる。 事実と意見を区別し、説得力のある意見文を書く。 原稿用紙の使い方を理解し、推敲する。 名文を音読・暗唱する。 	

第2学年 国語 (週4時間)	教科書	三省堂 『現代の国語 2』
	副教材	浜島書店 『国語便覧 (大阪府版)』、漢字テキスト、文法テキスト

学習到達目標

中学2年生においては、基礎学力と学習技能を定着させることを目標とする。

- 1, 漢字 中学2年生と3年生の漢字の学習を終える。また、漢字検定3級の取得を目指す。
- 2, 文学的文章 さまざまな表現を味わい、情景や心情を深く読み取るとともに、主題を読み取る力を育てる。また、読み取った主題を手がかりに、自らの世界観を広げる。
- 3, 説明的文章 文章の展開をとらえ、筆者の見方・考え方を理解するとともに、それらを手がかりに自らの考えを整理する。
- 4, 古典的文章 古文においては、中1で身につけた知識を活かしながら、場面の展開、人物の心情を読み取る。また、漢文においては訓読文を書き下し文に直す方法を学習するとともに、古人の心情に触れる。

- 5, 文法 形容詞・形容動詞の活用、助詞、助動詞についての知識を習得し、口語文法の学習を終える。
- 6, 読書 中長編の作品を読み、読書の楽しみを味わう。
- 7, 主体的に学ぶ力 他者の意見を取り入れながら意見を主張し、言葉を通して積極的に他者と関わる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	漢字検定3級を取得し、実社会に必要な国語の知識を学ぶ中で、それらを概念としても理解し、また技能を十分に習得している。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を十分に身につけ、他者に自分の思いや考えを分かりやすく正確に伝えることができる。	言葉がもつ価値への認識が深く、読書を通じて自己を向上させ、言葉を通して積極的に他者や社会に関わることができる。

学習方法

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要なものを準備し、着席しておく習慣を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、授業の流れに沿って学習するのは勿論のこと、教材に応じて国語辞典あるいは古語辞典を引き、自ら学ぼうとする姿勢で臨む。ノートは板書や教師の説明を丁寧な字で確実に書くことに加え、自分なりの疑問や気づきをもメモする習慣を付ける。授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出することを心掛ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週4時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 説明文	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成を把握し、筆者の論理の展開の仕方を捉える。 ・短歌のリズムや表現技法を学び、短歌に詠まれた情景や心情を味わう。 ・暗唱練習をし、古文のリズムに親しむ。 ・場面の展開、人物の心情を読み取り、古典の世界に親しむ。 ・登場人物の人物像と相互関係を捉える。 ・主人公の言動に着目し、その意図や心情を読み深める。 ・詩を読み、作者独自の表現を味わう。 ・詩に込められた作者の思いを読み取る。 ・詩の表現技法を復習する。 ・動詞について学習する。 ・形容詞・形容動詞について学習する。 ・教科書準拠のドリルを用い、中学2年の漢字を学習する。 ・問題集を用いて、漢字検定3級合格を目指し学習する。 ・短編の作品だけでなく中長編の作品にも挑戦し、さまざまな世界に関心や興味を持つ。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語への関心・意欲・態度 ・話す・聞く力 ・読む能力 ・書く能力 ・言語についての知識・理解・技能 <p>【評価方法】</p> <p>定期考査の成績</p> <p>定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力をみる出題もある。</p> <p>平常点</p> <p>授業時などの学習過程で、評価の観点の5項目について評価する。</p> <p>課題などの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。</p>
	2. 短歌		
	3. 古文		
	4. 小説		
	5. 詩		
	6. 文法		
	7. 漢字		
	8. 読書		

2 学 期	1. 小説	・人物の言動の意味を考え、人物像とその変化を捉える。
	2. 漢詩	・工夫された表現に着目して、文体の特徴を捉えて読み味わう。
	3. 説明文・評論	・返り点について復習する。
	4. 文法	・訓読文を書き下し文に書き換える練習をする。
	5. 漢字	・漢詩を音読・暗唱し、詩に歌われた情景・心情を味わうとともに、漢詩の知識を理解する。
	6. 古文	・抽象的な概念をあらわす言葉について理解を深め、語彙を増やす。
	7. 読書	・接続語・指示語の働きを理解する。
3 学 期	1. 評論	・助詞について学習する。
	2. 古文	・教科書準拠のドリルを用い、中学3年の漢字を先取り学習する。
	3. 文法	・問題集を用いて、漢字検定3級合格を目指し学習する。
	4. 漢字	・さまざまな古文の暗唱をする。
	5. 読書	・中長編の作品を読み、さまざまな世界に関心や興味を持つ。
	6. 書写	・意見と根拠との関係に注意して筆者の主張を捉える。
		・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりする。
		・作品に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いを想像する。
		・助動詞について学習する。
		・教科書準拠のドリルを用い、中学3年の漢字を先取り学習する。
		・問題集を用いて、漢字検定3級合格を目指し学習する。
		・中長編の作品を読み、さまざまな世界に関心や興味を持つ。
		・詩歌などを行書体で書く練習をする。

第3学年 国語 (週4時間)	教科書	三省堂 『現代の国語 3』
	副教材	漢字検定準2級対策問題集、浜島書店『国語便覧(大阪府版)』、文法テキスト

学習到達目標

中学3年生では、中1・中2で養った基礎学力と学習技能に基づいて、学力の充実を図る。

1. 漢字 日本漢字能力検定準2級の取得を目指す。
2. 文学的文章 さまざまな作品に触れる中で、より深い次元での人物の心情・作品の主題をとらえ、そこから社会や人間一般についての理解を深める。
3. 説明的文章 より複雑な文章展開を把握し、筆者の主張を読み取る。また、筆者の物事の見方を参考にしながら、新たな視点を獲得し、自分の考えの幅を広げる。

4. 古典 動詞の活用について学ぶ。さまざまな古文を読み、古典の世界に親しむ。
5. 漢文 書き下し文や再読文字について学ぶ。故事成語などの短文を読み、漢文の世界に親しむ。
6. 表現 書く作業を通して、観察力・表現力をつける。また、グループ発表や質疑応答の作業を通して、筋道を立てて話す力・聞く力をつける。
7. 教材に応じて国語辞典や古語辞典、また便覧や iPad を使い、疑問はその場で調べる・質問する等、自ら学ぶ姿勢で授業に臨む。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	実社会に必要な国語の知識を学ぶ中で、それらを概念としても理解し、また技能を十分に習得している。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を十分に身につけ、他者に自分の思いや考えを分かりやすく正確に伝えることができる。	言葉がもつ価値への認識が深く、読書を通じて自己を向上させ、言葉を通して積極的に他者や社会に関わることができる。

学習方法

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要なものを準備し、着席しておく習慣を付ける。授業中は教師の説明や指示を注意深く聞き、疑問等は状況や必要に応じて、質問する、或いは辞典・便覧・iPad を使って調べるといった能動的な学習姿勢で臨む。ノートは板書や教師の説明を丁寧な字で確実に書くことに加え、自分なりの気づきをメモする習慣を付ける。課題は丁寧に仕上げ、期限を守って提出することを心掛ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週4時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 俳句	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句の表現法、文学史的知識を学び、俳句に詠まれた情景や心情を味わう。 ・文章の構成や要旨をとらえ、必要に応じて要約する。 ・事実と意見を区別し、筆者の見方や考え方を理解する。 ・登場人物の心情や行動の意味を理解し、作品の読みを深める。 ・自分の意見を発表し、周囲の意見も聞くことで自分の考えをまとめる。 ・既習事項について復習し、正しく理解する。 ・和歌の文学史や修辞法を学習し、和歌に詠まれた情景や心情を味わう。 ・問題集を用いて、漢字検定準2級の合格を目指す。 ・短編を中心に読み、作品世界を味わう。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語への関心・意欲・態度 ・話す・聞く力 ・読む能力 ・書く能力 ・言語についての知識・理解・技能 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力をみる出題もある。 2. 平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の5項目について評価する。 (2) 課題などの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。
	2. 説明文		
	3. 小説		
	4. 文法 (口語)		
	5. 古文 (和歌)		
	6. 漢字		
	7. 読書		
2 学期	1. 小説	<ul style="list-style-type: none"> ・人物の言動の意味を考え、人物像とその変化をとらえる。 ・作者の工夫された表現に着目し、作品世界を読み味わう。 ・文章の展開に注意して内容をとらえ、筆者の主張や文章の要旨をまとめる。 	
	2. 説明文・評論		

	<p>3. 詩</p> <p>4. 古文『おくのほそ道』等</p> <p>5. 随想</p> <p>6. 漢文『論語』等</p> <p>7. 漢字</p> <p>8. 読書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい視点を獲得し、自分の考えの幅を広げる。 ・表現技法とその効果について学習する。 ・詩に込められた作者の思いを読み取る。 ・音読・暗唱し、古文のリズムに親しむ。 ・俳文の特徴を学び、作者の自然や人間に対する思いに触れる。 ・時代背景を理解し、人間・社会についての考えを深める。 ・書き下し文について復習する。 ・音読・暗唱を重視し、再読文字等についても学ぶ。 ・問題集を用いて、漢字検定準2級の合格を目指す。 ・長編を中心に、様々な生き方や考え方に触れる。 	
3 学 期	<p>1. 評論</p> <p>2. 小説</p> <p>3. 文法（敬語）</p> <p>4. 漢字</p> <p>5. 古文（文語文法）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・論理の展開の仕方をとらえて、筆者の問題提起を受け止める。 ・評論を読むために必要な語彙力をつける。 ・作品の書かれた時代背景を理解する。 ・人物の心情をとらえながら、主題を読み取る。 ・口語文法の敬語について学ぶ。 ・問題集を用いて、漢字検定準2級の合格を目指す。 ・基本的知識の復習と、動詞の活用について学習する。 	

中学校 社会科 シラバス

3年間のねらい 学習目標

全員が1年生で地理的分野、2年生と3年生で歴史的分野、3年生で公民的分野と社会探究を学ぶ。地理は空間の広がりに着目し、地点や地域、地形自然環境との関係を追って、歴史は時間の流れに着目し時間や地域を追って、どのような原因や経緯・関係性の中に我々や我々と関係する他者が現状にあるのかを捉え、説明しようという学びである。時間や空間のなかで、自分や他者、それぞれを取り巻く政治・経済・社会・文化・自然とのかかわりなど特徴をつかみ、適切に描写できるようになることをめざす。また、公民は地理や歴史の学習を基礎に、政治や経済・国際関係などの現代社会に関わる問題をどのように理解し、どのようなところに課題や解決すべき問題があるのかを学ぶ。いずれの分野でも、SDGs（持続可能な開発目標）を意識し、身近な世の中であなたが解決すべきだと感じている問題や、世界でおきている問題の解決に、学習した内容や技能を応用する学習を行うが、特に公民では、社会に出て活躍する準備として、さまざまな問題に自らの見識をもって、自分事として関わられるようになることをめざす。

社会科の学習の総まとめとなる社会探究では、特定の課題を取り上げ、その課題について、社会科的な視点や考え方を応用して、どのようにアプローチすれば良いのかを、勉強するみなさんのこれまでの生活や経験、将来の進路や生活に結びつけ、より深く探究する。その過程で、目の前の具体的な問題について、学校の授業で学んだことと、みなさんの感性や問題意識を結びつけ、解決できるようになることをめざす。

社会科の学びの中で特に意識して欲しいことは、自分はどのような意識・感覚で世の中にまつわる様々なことととらえようとしているのか、友人や先生、ご両親などのとらえ方とどこが同じで、どこが違うのかに敏感になることである。たとえば、ある人が別の人とけんかをしているとしよう。これを見た人は「二人がけんかしている」という。それは事実だということかもしれない。しかし、その人の話を、気をつけてよく聞いてみると、その人がけんかしている二人を止めたいと思って話しているのか、それとも二人のけんかを非難しているのか、あるいはあわよくば二人が共倒れしてくれれば良いと思っているかはわからない。世の中について知識をたくさん持っていることは大切だが、その知識が何のために、どのような目的や脈絡の中でどのように使われているのか、誰にとって大切な知識で、どのような意味があるのかを、知識について話す人の取り上げ方とともに理解し、そのようなとらえ方で本当に良いのか、しっかり考えられるようになって欲しい。その上で、自分は世の中についてどのような問題意識で、どのように説明すれば良いのかを自覚して選択し、話したり書いたりできるようになってほしい。

なぜなら、みなさんは家族、友だち、地域、国、世界など、さまざまな単位や広がりの中で世の中を支える大切な存在だからだ。みなさん一人ひとりが世の中をどのようにとらえ、どのように世の中と関わろうとするかで、伝統の守っていくべき部分が守られ、変わっていくべき部分が少しずつ変わっていく。社会科の学びの中で、世の中を適切に語り、共に課題を解決していくために、世の中について、自分と関わりを持つ人が納得できる説明をできるようになる。

第1学年	教科書	『社会科 中学生の地理』（帝国書院）
地理的分野 (週4時間)	副教材	『中学校社会科地図』（帝国書院） 『アドバンス中学地理資料』（帝国書院）

学習到達目標

世の中で見られる様々なできごとや社会の仕組み、社会現象などについて、位置や分布・場所・人間と自然環境との相互依存関係・空間的相互依存作用・地域などに注目し、証拠となることながら適切に活用して、理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。授業を中心とする学びのなかで、地理に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、地理的な見方・考え方をはたらかせて、世の中でおこる出来事や社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できるよう資質・能力を育む。

- (1) ①日本と世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解する。
②調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- (2) ①地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察する力を養う。
②地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

- (3) ①日本や世界の地域に関わる諸事象について、学んだことをふまえ、どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
- ②地理に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し国土を大切にし、他国や他国の生活・文化を尊重することについての自覚を深める。

評価の観点

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	<p>①日本と世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解できる。</p> <p>②調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめることができる。</p>	<p>①地理に関連する世の中の様々な出来事や社会の様子について、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、意味や意義を多面的・多角的に考察できる。</p> <p>②地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明し、それらを基に議論する力を身につける。</p>	<p>①日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究、解決しようとすることができる。</p> <p>②地理に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本国民として、世界の一員として、国土を大切にし、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができる。</p>

学習方法

- (1) 授業と予習復習を大切にしよう。
- ① 授業に積極的に参加しよう。教員の話をよく聞き、教科書や資料集、板書に書かれていないことで自分が知らないことについて、積極的にメモをとる習慣をつけよう。
 - ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしよう。
 - ③ 予習復習をこまめにしよう。苦手な人ほど予習も大切である。授業の前に何について勉強するのか、聞く用語が初めてでなくなると親しみがわく。
 - ④ 社会科が苦手な人ほど、社会科は単純な暗記科目であるという誤解をしている。得意な人ほど、一つの用語を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できる。つまり、知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切である。
- (2) 課題にしっかり取り組もう。問題集やしらべもの、調査、ワークシート、レポート、スピーチ、プレゼンテーション、ノート提出など様々な形の課題が課せられる。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、社会科にとって大切な訓練である。大学に進学し、世の中に出たときの武器にもなる。面倒くさがらずに、一生懸命取り組んでほしい。
- (3) 授業と世の中の接点を意識し、ニュースや新聞で報じられていることとの関係を考えよう。
世の中のできごとや、身の回りの不思議なことがらと授業で学ぶことがらは常に関係している。日常的にニュースや新聞に親しみ、授業で勉強したことと関連づけられるようになることが、社会科が得意になるための早道だといえよう。
- (4) ふとした疑問を大切にしよう。なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか。町で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした情報が不確かなこと、もっと適切な説明があることが考えられる。感じた疑問を放置せず、粘り強く食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれない。「なぜ」にこだわって調べるのは、社会科が大切にすることも基本的なアプローチである。
- (5) 地図帳や統計、Google EarthやGoogle Mapなどの地理情報システム(GIS)に親しもう。
地図や統計情報、GISに親しみ、使っていると自然に知識が増え、地理が得意になる。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週4時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学 期	<p>1. 世界と日本の地域構成</p> <p>①世界の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの住む地球を眺めて ・ いろいろな国の国名と位置 ・ 緯度と経度 ・ 地球儀と世界地図の違い <p>②日本の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の中での日本の位置 ・ 時差でとらえる日本の位置 ・ 日本の領域とその特色 ・ 都道府県と県庁所在地 <p>2. 世界のさまざまな地域</p> <p>①人々の生活と環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界のさまざまな生活と環境 ・ 暑い地域の暮らし～インドネシアでの生活～ ・ 乾燥した地域の暮らし～アラビア半島での生活～ ・ 温暖な地域の暮らし～スペインでの生活～ ・ 寒い地域の暮らし～シベリアでの生活～ ・ 高地の暮らし～アンデス山脈での生活～ ・ 世界各地の衣食住とその変化 ・ 人々の生活と宗教の関わり <p>②世界の諸地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アジア州 ・ ヨーロッパ州 ・ アフリカ州 ・ 北アメリカ州 ・ 南アメリカ州 ・ オセアニア州 	<p>ア. 緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。</p> <p>イ. 世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>ア. 日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を理解している。</p> <p>イ. 日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>ウ. 日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>ア. 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受け、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えることを理解している。</p> <p>ア. 世界各地の人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解し、世界の主な宗教の分布についても理解している。</p> <p>イ. 世界各地の人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>ウ. 世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>ア. 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。</p> <p>ア. アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を理解している。</p> <p>イ. アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセア</p>	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地理についての知識・理解 ・ 地理を理解・解釈するための技能・調査方法 ・ 地理についての思考・判断・表現 ・ 地理的分野の学習に主体的に取り組み、地理的分野で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 <p>【評価方法】〔各学期共通〕</p> <p>1. 定期考査の成績</p> <p>定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、地理的な見方、考え方、地理についての判断や表現、地理に関する知識や理解、技能・調査を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。</p> <p>2. 学習態度等の平常点</p> <p>(1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。</p> <p>(2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p>
-------------	--	---	---

		<p>ニア州の各州について、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>ウ. 世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
2 学 期	<p>3. 日本の様々な地域</p> <p>①身近な地域の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査テーマを決めよう ・ 調査方法を考えよう ・ 野外調査を実行しよう ・ 調査を深めて結果を発表しよう <p>②日本の地域的特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山がちな日本の地形 ・ 川がつくる地形と海岸や海洋の特色 ・ 日本の気候 ・ 日本のさまざまな自然災害 ・ 自然災害に対する備え ・ 日本の人口 ・ 日本の資源・エネルギーと電力 ・ 日本の農業・林業・漁業とその変化 ・ 日本の工業とその変化 ・ 日本の商業・サービス業 ・ 日本の交通網・通信網 ・ さまざまな地域区分 	<p>ア. 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。</p> <p>ア. 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。</p> <p>イ. 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>ア. 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解している。</p> <p>ア. 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解している。</p> <p>ア. 日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解している。</p> <p>ア. 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解している。</p> <p>ア. 「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解している。</p> <p>ア. 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けている。</p> <p>イ. 「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多</p>	

	<p>③日本の諸地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州地方 ・中国・四国地方 ・近畿地方 ・中部地方 ・関東地方 ・東北地方 ・北海道地方 	<p>面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>イ. 日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>ア. 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解している。</p> <p>ア. (1)自然環境を中核とした考察の仕方、(2)人口や都市・村落を中核とした考察の仕方、(3)産業を中核とした考察の仕方、(4)交通や通信を中核とした考察の仕方、(5)その他の事象を中核とした考察の仕方などで取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。</p> <p>イ. 日本の諸地域において、それぞれ上の(1)から(5)までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>ウ. 日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
3 学 期	<p>4. 地域の在り方</p> <p>①地域の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の在り方 ・課題を把握しよう ・地域をとらえよう ・課題の要因を考察しよう ・課題の解決に向けて構想しよう ・課題の成果を発信しよう 	<p>ア. 地域の実態や課題解決のための取組を理解している。</p> <p>ア. 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。</p> <p>イ. 地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。</p> <p>ウ. 地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	

※学習の順序や学期ごとの学習内容については、担当者の配置により、適宜分担して内容の担当範囲を設定し、学習順序を変更することがある。

第2・3学年	教科書	『最新 新しい日本の歴史』(育鵬社)
歴史的分野	副教材	未定

(週 4 + 1 時間)		
--------------	--	--

学習到達目標

世の中で起こる出来事やしくみ、社会現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、家族・地域・国家・世界などの様々なレベルの社会で自らの意志と判断にしたがって生活し、それらの社会をより良くしていくために必要な資質・能力の基礎として、以下のとおり、知識・理解・技能・能力・態度などを身につける。

- (1) 日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。
- (2) 歴史上のできごとや現象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする姿勢や、多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本の歴史や伝統を尊重し、他国の人々と協調しようとする態度を身につける。

評価の観点

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	①日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色をふまえて理解できる。 ②諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとすることができる。 ②多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本の歴史や伝統を尊重し、他国の人々と協調しようとする態度を身につけている。

学習方法

- (1) 授業と予習復習を大切にしよう。
 - ① 授業に積極的に参加しましょう。教員の話をよく聞き、教科書や資料集、板書に書かれていないことで自分が知らないことについて、積極的にメモをとるくせをつけてください。
 - ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしましょう。
 - ③ 予習復習をこまめにしましょう。苦手な人ほど予習も大切。授業の前に何について勉強するのか、聞く用語が初めてでなくなると親しみがわきます。
 - ④ 社会科が苦手な人ほど、社会科は単純な暗記科目であるという誤解をしています。得意な人ほど、一つの用語を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できます。つまり、知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切です。
- (2) 課題にしっかり取り組みましょう。問題集やしらべもの、調査、ワークシート、レポート、スピーチ、プレゼンテーションノート提出など様々な形の課題が課せられます。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、社会科にとって大切な訓練です。大学に進学し、世の中に出たときの武器にもなります。面倒くさがらずに、一生懸命取り組んでください。
- (3) 授業と世の中の接点を意識し、ニュースや新聞で報じられていることとの関係を考えましょう。世の中のできごとや、身の回りの不思議なことがらと授業で学ぶことがらは常に関係しています。日常的にニュースや新聞に親しみ、授業で勉強したことと関連づけられるようになることが、社会科が得意になるための早道です。
- (4) ふとした疑問を大切にしましょう。なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそ

のような説明がされているのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がま
 ずいこと、もっと適切な説明があることはままあります。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下が
 って調べてみると、大切な発見が待っているかもしれません。「なぜ」にこだわって調べるのは、社会
 科が大切にするもっとも基本的なアプローチです。

(5) ご家族や親戚、地域の方が歴史について話していることがあれば、よく聞きましょう。博物館や資
 料館を訪ねてみるのも良い経験です。学校で習う歴史の説明と同じかどうか良く聞き比べてください。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

第2学年<週4時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 年代や時代区分の表 し方	ア. 歴史には様々な時代区分の仕方があることを理解できる。 イ. 目的に応じて、時代や年代などを適切に表現できる。	【評価の観点】 ・古代から近代の歴史についての知識・理解 ・歴史を理解・解釈するための技能 ・古代から近代の歴史についての思考・判断・表現 ・歴史的分野の学習に主体的に取り組み、歴史的分野で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】 〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、歴史的な見方、考え方、歴史についての判断や表現、歴史に関する知識や理解、技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評
	2. 原始と古代の日本 ・海洋国家日本の歩み① ・歴史絵巻～原始・古代～ ①日本のあけぼのと世界の文明 ・日本列島ができたころの人々 ・豊かな自然と縄文文化 ・文明のおこりと中国の古代文明 ・稲作・弥生文化と邪馬台国 ・古墳の広まりと大和朝廷 ・大和朝廷と東アジア ・世界の宗教と日本	ア. 原始・古代という時代の流れと特色を資料活用してとらえ、概要を理解できる。 ア. 世界各地で文明や国家がおこったようすを理解するとともに、列島独自の文化に大陸文化が加わり、次第に国の形が整っていった経緯を理解している。 ア. 古代の日本について、様々な資料から調べ、政治・社会・文化などに分けてその特色をまとめることができる。 イ. 日本の形成と発展に大陸が果たした役割について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 ウ. 縄文時代の自然観や宗教観が、現代の日本人に与えた影響について、意欲的に調べて考察しようとしている。	
	②「日本」の国の成り立ち ・聖徳太子の国づくり ・大化の改新と激動の東アジア ・飛鳥文化・白鳳文化と遣唐使 ・大宝律令と平城京 ・天平文化 ・平安京と摂関政治 ・新しい仏教と国風文化	ア. 日本の古代文化が、大陸の影響を受けながら、独自に発展したものであることを、様々な資料から読み取っている。 ア. 律令国家となった日本の政治が、次第に貴族中心に変化していくようすを、国内外の動きを踏まえ理解している。 イ. 律令政治がどのように形成され、変容していったのかを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 ウ. 飛鳥・奈良・平安時代の文化や史跡に関心を持ち、意欲的に調べられる。	
3. 中世の日本 ・海洋国家日本の歩み② ・歴史絵巻～中世～ ①武家政治の成立 ・武士の登場と院政	ア. 中世という時代の流れと特色を資料活用してとらえ、概要を理解できる。 ア. 武家社会やその文化の特徴について、様々な資料を活用して読み取っている。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・武士の世の到来と鎌倉幕府 ・幕府政治の展開と人々の暮らし ・新しい仏教と武士の文化 ・元寇と鎌倉幕府のおとろえ 	<p>ア. 朝廷と幕府の二つの政府の並存というかたちが形成されたことを、両者の力関係の変化を踏まえて理解できる。</p> <p>イ. 土地の開発・所有という観点から、武士のおこりとその勢力を拡大させていった理由について考察できる。</p> <p>ウ. 武力をもつ集団が政治の実権をにぎっていったようすを意欲的に調べようとしている。</p>	<p>価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p>
<p>2 学 期</p>	<p>②武家政治の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建武の新政と南北朝の動乱 ・室町幕府と東アジア ・応仁の乱と戦国大名 ・産業の発達と広がる自治の動き ・室町時代の文化 <p>4. 近世の日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋国家日本の歩み③ ・歴史絵巻～近世～ <p>①ヨーロッパとの出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人の世界進出 ・ヨーロッパ人の来航 <p>②信長・秀吉の全国統一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長と豊臣秀吉の全国統一 ・豊臣秀吉の政治と外交 ・雄大で豪華な桃山文化 <p>③江戸幕府の政治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府の成立 ・「鎖国」への道 ・「鎖国」の時代に開かれていた窓口 ・身分制度の確立 	<p>ア. 武家の政治の展開について、資料を活用して読み取ることができる。</p> <p>ア. 民衆の動きが盛んになってきた時代の動向を理解できる。</p> <p>ア. 周辺の国々の変化や、それらが日本に及ぼした影響について理解している。</p> <p>イ. 自治の誕生や産業の発展などの社会の変化を、政治と関連付けて考察できる。</p> <p>ウ. 建武の新政に伴う争乱や、応仁の乱に関心をもち、幕府の力がなぜ弱まったのか、意欲的に調べようとしている。</p> <p>ア. 近世という時代の流れと特色を資料活用してとらえ、概要を理解できる。</p> <p>ア. ヨーロッパによる世界の結合とその影響について、資料を調べ、読み取り、概要を理解できる。</p> <p>イ. ヨーロッパの文物が、日本にどのような影響を及ぼしたのか考察できる。</p> <p>ウ. ヨーロッパ人がなぜ海外に向かったのかを意欲的に調べようとしている。</p> <p>ア. 織豊時代の統一事業とこの時代の文化の特色について理解している。</p> <p>ア. 朝鮮出兵の理由と国内外に与えた影響について理解している。</p> <p>ア. 安土・桃山時代の文化の特色を、様々な資料から読み取りまとめている。</p> <p>イ. 戦国時代の争乱から江戸時代の安定へと向かう時代の架け橋として信長と秀吉が果たした役割について考察できる。</p> <p>ウ. 信長・秀吉の統一事業に関心をもち、両者の共通点や相違点について、意欲的に調べようとしている。</p> <p>ア. 幕藩体制、鎖国、身分制度という幕府を支えた主な政策について理解できる。</p> <p>ア. 幕府の権力と体制がどのように整えられていったのか、様々な資料を調べて整理した結果をまとめられる。</p> <p>イ. 幕府が、自らの支配をおびやかす可能</p>	

	<p>④産業・交通の発達と町人文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綱吉の文治政治と元禄文化 ・新田の開発と産業・交通の発達 ・藩校と寺子屋 <p>⑤幕府政治の改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化と享保の改革 ・田沼の政治と寛政の改革 ・欧米諸国の接近 ・天保の改革と諸藩の改革 ・江戸の町人文化 <p>5. 近代の日本と世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋国家日本の歩み④ ・歴史絵巻～近代①～ <p>①欧米諸国の進出と幕末の危機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米の市民革命・産業革命 ・欧米列強のアジア進出 ・黒船来航の衝撃 ・尊王攘夷運動の高まり ・倒幕と大政奉還、王政復古の号令 	<p>性をもつ大名・朝廷・外国・農民を、どのようにして奪っていったのかを考察し、過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>ウ. 江戸時代に関心をもち、自分の抱く時代のイメージと実際の違いについて、意欲的に調べようとしている。</p> <p>ア. 社会の安定とともに、人々の生活にも発展と成熟が見られるようになり、文化や教育の発達したことを理解できる。</p> <p>ア. 江戸時代に形成された社会や文化について、様々な資料を活用して考察し、その結果をまとめることができる。</p> <p>イ. 社会の安定と産業・交通の発達、町人文化の形成との関係を考察できる。</p> <p>ウ. 江戸時代の人々の生活に関心をもち、現代との比較に立って、意欲的に調べようとしている。</p> <p>ア. 三大改革や田沼の政治とその結果を比較し、理解している。</p> <p>ア. 幕府が直面した課題について資料を調べ、結果をまとめることができる。</p> <p>イ. 幕政改革の成否について、貨幣経済の発達や社会の変化という観点から考察できる。</p> <p>ウ. 幕政改革を行った人物に関心をもち、彼らの考え方や政策について、意欲的に調べようとしている。</p> <p>近代という時代の流れと特色を資料活用してとらえ、概要を理解できる。</p> <p>ア. 資料から、工業化・近代化にともなう欧米諸国の動向を読み取り、まとめることができる。</p> <p>ア. 当時の国際情勢から鎖国の維持が困難であったことを踏まえ、日本が近代国家となるためには政治体制を幕府から変える必要があったことを理解できる。</p> <p>イ. 市民革命と産業革命の結果、近代国家となった欧米諸国が、鎖国体制を打ち破った経緯について、多面的・多角的に考察できる。</p> <p>ウ. 幕末史に関心をもち、外国船の来航が倒幕の引き金になった理由について、意欲的に調べようとしている。</p>	
3 学 期	<p>②明治・日本の国づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五箇条の御誓文と明治維新 ・新しい国づくりへの道 ・学制・兵制・税制の改革 	<p>ア. 明治政府の国づくりの方針や具体的施策について、資料を活用して、過程や結果を読み取り、まとめることができる。</p> <p>ア. 人々の欧米に対する独立の意志が、近</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・明治初期の外交と国境の画定 ・岩倉使節団と西南戦争 ・殖産興業と文明開化 	<p>代国家の建設の原動力であったことを理解できる。</p> <p>イ. 欧米諸国の動向と明治政府の近代化の関係について考察し、説明できる。</p> <p>ウ. 明治維新に関する地域史や史跡に関心をもち、意欲的に調べようとしている。</p>	
<p>③アジア最初の立憲国家・日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会開設へ向けて・自由民権運動 ・大日本帝国憲法の制定と帝国議会 ・不平等条約の改正への努力 ・朝鮮半島と日清戦争 ・ロシアとの激突・日露戦争 ・国際的地位の向上と韓国併合 	<p>ア. 諸資料を活用し、自由民権運動や日清・日露戦争に関して、適切に読み取り、説明することができる。</p> <p>ア. 日本の近代化の成功や対外戦争での勝利が、諸外国に与えた様々な影響について、多面的・多角的に理解している。</p> <p>イ. 国内の近代化や対外戦争の勝利と欧米との不平等条約の改正との関係について考察し、結果を説明できる。</p> <p>ウ. 明治時代の近代化や日本の国際的地位の変化に関心をもち、その経緯を意欲的に調べようとしている。</p>	
<p>④近代産業の発展と近代文化の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業革命と国民生活の変化 ・西洋文化と明治の文化 	<p>ア. 諸資料から産業発展の様子を読み取り、産業発展の様々な影響を理解できる。</p> <p>イ. 日本の急速な近代化・欧米化の進展の功罪を多面的・多角的に考察し、考察の過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>ウ. 明治の文化や産業の発達に関心をもち、意欲的に調べようとしている。</p>	
<p>6. 二度の世界大戦と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋国家日本の歩み⑤ ・歴史絵巻～近代②～ 	<p>ア. 20世紀前半という時代の流れと特色を、資料を活用してとらえ、理解できる。</p>	
<p>①第一次世界大戦前後の日本と世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦 ・ロシア革命と第一次世界大戦の終結 ・ベルサイユ条約と国際協調の動き ・大正デモクラシーと政党政治 ・ワシントン会議と日米関係 ・文化の大衆化・大正の文化 	<p>ア. 諸資料から、第一次大戦の被害とその反省から生じた世界の動きを読み取ることができる。</p> <p>ア. 大正時代の政治の動向、文化の特色、社会の変化を、国際情勢を踏まえて理解できる。</p> <p>ア. 諸資料より選挙権拡大の推移を読み取ったり、まとめたりすることができる。</p> <p>イ. 大正期の日本の国際的な地位について、多角的・多面的に考察できる。</p> <p>イ. 民族自決や共産主義の伸長と、日本の民主化の動向との関係を考察できる。</p> <p>ウ. 民主政治の成熟が促した世界情勢に関心をもち、わが国での影響について、意欲的に調べようとしている。</p>	

※学習の順序や学期ごとの学習内容については、担当者の配置により、適宜分担して内容の担当範囲を設定し、学習順序を変更することがある。

第3学年〈週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	②第二次世界大戦終結までの日本と世界 ・世界恐慌と協調外交の行きづまり ・共産主義とファシズムの台頭 ・中国の排日運動と満州事変 ・日中戦争（支那事変） ・緊迫する日米関係 ・第二次世界大戦 ・太平洋戦争（大東亜戦争） ・日本軍の進出とアジア諸国 ・戦時下の暮らし ・戦争の終結	ア. 日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争に関して、諸資料から、史上最大の戦争の要因を読み取ることができる。 ア. 世界恐慌後の日本の大陸進出と、米・中・ソなどの反応について理解している。 イ. 国際協調体制の恐慌による崩壊と、ファシズムの成長の関係を考察できる。 イ. 日本における政治家と軍部の対立と、その関係の変化について考察できる。 ウ. 戦争の原因やその過程、被害の状況に関心をもち、戦争がどのようにして起こったのかについて、意欲的に調べることができる。	【評価の観点】 ・現代史についての知識・理解 ・歴史を理解・解釈するための技能 ・現代史についての思考・判断・表現 ・歴史的分野の学習に主体的に取り組み、歴史的分野で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】 〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、歴史的な見方、考え方、歴史についての判断や表現、歴史に関する知識や理解、技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。
2 学期	7. 現代の日本と世界 ・海洋国家日本の歩み⑥ ・歴史絵巻～現代～ ①第二次世界大戦後の占領と再建 ・占領下の日本と日本国憲法 ・朝鮮戦争と日本の独立回復 ・朝鮮戦争と日本の独立回復 ・冷戦と日本	ア. 20世紀後半という時代の流れと特色を、資料を活用してとらえ、理解できる。 ア. 諸資料から、東西両陣営の対立の推移について読み取ることができる。 ア. 占領政策が冷戦の進行によって影響を受けたことを理解できる。 イ. 冷戦の激化と、日本の独立回復や西側陣営への加入の関係について多角的・多面的に考察できる。 ウ. 新憲法の制定について、今日的課題を念頭に意欲的に調べようとしている。	
3 学期	②経済大国・日本の国際的役割 ・世界の奇跡・高度経済成長 ・冷戦と昭和時代の終わり ・戦後と現代の日本文化 ・地域紛争とグローバル化 ・日本の現状とこれから	ア. 諸資料を活用し、高度経済成長時代から平成に至る日本の歩みを、国際社会の動向をふまえて理解することができる。 イ. 冷戦・公害・石油危機などの諸問題とその解決の過程について多角的・多面的に考察することができる。 ウ. 戦後の日本の歩みや社会の変化に関心をもち、意欲的に調べようとしている。	

第3学年 公民的分野 (週3時間)	教科書	『社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して』(帝国書院)
	副教材	未定

学習到達目標

現代社会にみられる様々なことがらについて、個人の尊厳と人権の尊重の意義、自由・権利と責任・義務との関係、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活、国際関係などの視点から、特に個人と社会との関わりに注目し、証拠となることがらを適切に活用して、理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。授業を中心とする学びのなかで、現代社会に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、世の中で起こる出来事や社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、グローバル化する国際社会の中で自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できるよう資質・能力を育む。

- (1) ①現代社会に関する諸課題について知識を身につけ、個人と社会との関わりを中心に理解する。
②諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。
- (2) ①社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察し、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力を身につける。
②現代社会について思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) ①現代社会に関する諸事象について、学んだことをふまえ、どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
②現代社会に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、自国の主権者として適切な行動や判断ができるようになることや、他国の主権を尊重し、協力し合うことの大切さについての自覚を深める。

評価の観点

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	①現代社会に関する諸課題について知識を身につけ、個人と社会との関わりを中心に理解できる。 ②諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。	①社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察し、現代社会に見られる課題について公正に判断できる。 ②現代社会の諸課題について思考・判断したことを説明し、それを基に議論することができる。	①現代社会の諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究、解決しようとすることができる。 ②現代社会に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、主権者として、国際社会の一員としての自覚を深めることができる。

学習方法

- (1) 授業と予習復習を大切にしよう。
 - ① 授業に積極的に参加しましょう。教員の話をよく聞き、教科書や資料集、板書に書かれていないことで自分が知らないことについて、積極的にメモをとるくせをつけてください。
 - ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしましょう。
 - ③ 予習復習をこまめにしましょう。苦手な人ほど予習も大切。授業の前に何について勉強するのか、聞く用語が初めてでなくなると親しみがわきます。
 - ④ 社会科が苦手な人ほど、社会科は単純な暗記科目であるという誤解をしています。得意な人ほど、一つの用語を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できます。知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切です。
- (2) 課題にしっかり取り組みましょう。
問題集や調べもの、調査、ワークシート、レポート、スピーチ、プレゼンテーション、ノート提出など様々な形の課題が課せられます。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、社会科にとって大切な訓練です。大学に進学し、世の中に出たときの武器にもなります。面倒くさがらずに、一生懸命取り組んでください。
- (3) 授業と世の中の接点を意識し、ニュースや新聞で報じられていることとの関係を考えましょう。
世の中のできごとや、身の回りの不思議なことがらと授業で学ぶことがらは常に関係しています。日

常にニュースや新聞に親しみ、授業で勉強したことと関連づけられるようになることが、社会科が得意になるための早道です。

(4) ふとした疑問を大切にしましょう。

なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか。街で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がまずいこと、もっと適切な説明があることはまます。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれません。「なぜ」にこだわって調べるのは、社会科が大切にすることも基本的なアプローチです。

(5) お家や地域で、政治や経済、国際関係について誰かが話していたら、その話を良く聞いてみてください。学校で習って疑問に思ったことを、お家の方に尋ねるのも、公民では大切な勉強になります。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

第3学年<週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	<p>1. 現代社会</p> <p>①現代社会と文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の特色 ・情報化が進む現代 ・グローバル化が進む現代 ・少子高齢化が進む現代 ・私たちの生活と文化 ・生活に息づく文化 ・日本の伝統と文化 <p>②現代社会をとらえる 枠組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的存在として生きる私たち ・効率と公正 ・私たちときまり <p>2. 政治</p> <p>①日本国憲法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民主主義と日本国憲法 	<p>ア. 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化について理解できる。</p> <p>ア. 現代社会における文化の意義や影響について理解している。</p> <p>イ. 位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>イ. 位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 現代社会と文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p> <p>ア. 現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。</p> <p>ア. 人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解している。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p> <p>ア. 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。</p>	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会についての知識・理解 ・現代社会を理解・解釈するための技能 ・現代社会の諸課題についての思考・判断・表現 ・公民的分野の学習に主体的に取り組み、公民的分野で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 <p>【評価方法】 [各学期共通]</p> <p>1. 定期考査の成績</p> <p>定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、社会的な見方、考え方、現代社会についての判断や表現、現代社会に関する知識や理解、技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。</p> <p>2. 学習態度等の平常点</p> <p>(1) 個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。</p> <p>(2) 小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペー</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義と立憲主義 ・人権保障と法の支配 ・日本国憲法の成立 ・国民主権 ・日本の平和主義 ・基本的人権の尊重 ・個人の尊重と憲法上の権利 ・自由権 ・平等権と差別されない権利 ・日本社会の差別の現実 ・社会権 ・政治に参加する権利と人権を守るための権利 ・これからの人権を考える ・法の支配を支えるしくみ ・権力の分立 ・憲法の保障・改正と私たち 	<p>ア. 民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。</p> <p>ア. 日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。</p> <p>ア. 日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p>	<p>パー, 振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p>
2 学 期	<p>②民主政治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民主政治と私たち ・国民の願いを実現するために ・世論とマスメディア ・政党の役割 ・選挙制度とその課題 ・国の政治のしくみ ・国会の役割としくみ ・国会の現状と課題 ・内閣の役割としくみ ・行政の役割と課題 ・私たちの生活と裁判 ・人権を守る裁判とその課題 ・地方自治と私たち ・地方自治と地方公共団体 ・地方公共団体のしくみと政治参加 ・地方財政の現状と課題 ・私たちと政治参加 <p>3. 経済</p> <p>①市場経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と経済 ・経済活動とお金の役割 ・お金の使い方と経済の 	<p>ア. 国会を中心とする日本の民主政治の仕組みの概要や政党の役割を理解している。</p> <p>ア. 議会制民主主義の意義、多数決原理とその運用の在り方について理解できる。</p> <p>ア. 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。</p> <p>ア. 地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>ウ. 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p> <p>ア. 身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。</p> <p>ア. 市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における</p>	

	<p>考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 価格の働きと経済 ・ 消費者と経済 ・ 家計の収入と支出 ・ 消費生活と流通の関わり ・ 消費者問題と政府の取り組み ・ 企業と経済 ・ 私たちの生活と企業 ・ 企業活動のしくみ ・ 金融のしくみと働き ・ 企業競争の役割 ・ 働くことの意義と労働者の権利 ・ 労働環境の変化と私たち ・ 企業の社会的責任 ・ これからの日本経済 ・ 景気の変動とその影響 ・ 日本銀行と金融政策 ・ グローバル化と日本経済 ・ これからの日本の経済と私たち <p>②財政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの生活と財政 ・ 国の支出と収入 ・ 社会資本の役割と環境への取り組み ・ 社会保障と私たちの生活 ・ これからの日本の財政 	<p>価格の決まり方や資源の配分について理解している。</p> <p>ア. 現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解している。</p> <p>イ. 勤労の権利と義務、労働組合の意義、労働基準法の本質について理解できる。</p> <p>エ. 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>エ. 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的社会に関わろうとしている。</p> <p>ア. 社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。</p> <p>ア. 財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p>	
3 学期	<p>4. 国際</p> <p>①国際社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紛争のない世界へ ・ 国家と国際社会 ・ 領土を巡る取り組み ・ 国際連合の働きとしくみ ・ 現代における紛争 ・ 兵器の脅威と軍縮への努力 	<p>ア. 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。その際、領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合の働きなどの事項について理解している。</p> <p>ア. 地球環境、資源・エネルギー、貧困な</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化が進む国際社会 ・国際社会における日本の役割 ・貧困解消と環境保全 ・貧困問題とその解消 ・地球規模で広がる環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・国際社会のよりよい発展 <p>②課題の探究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を目指して 	<p>どの課題の解決のために経済的、技術的な協力などの重要性を理解している。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。</p> <p>ウ. 平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p> <p>イ. 社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、考えを説明、論述している。</p> <p>ウ. 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p>	
--	--	--

※学習の順序や学期ごとの学習内容については、担当者の配置により、適宜分担して内容の担当範囲を設定し、学習順序を変更することがある。

第3学年	教科書	なし
社会探究 (週1時間)	副教材	必要な教材を適宜配布する

学習到達目標

地理的分野・歴史的分野・公民的分野の教科書的な学習内容を超え、社会科的探究のスキルを獲得する。地理的分野を扱う場合は、現代日本に生きる私たちの視点から、国内や海外の地域的課題に地理的アプローチを用いて、よりよい社会の実現をめざして探究するスキルや姿勢を身につける。歴史的分野を扱う場合は、過去を継承しつつ、現在に生きる自身の視点から歴史に問いかけ、よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究するスキルを身につける。公民的分野については、特に政治・経済的分野を中心に現代社会の特色について多面的・多角的に考察し、私たちが生きる現代社会に見られる課題の解決をはかろうとする態度とスキルを身につける。

評価の観点

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	<p>①様々な現代的課題に関連する社会科的知識や理解を、教科書を越えて、取り扱う具体的な問題の状況に即して獲得できる。</p> <p>②様々な史・資料から情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。</p>	<p>①様々な現代的課題に関連する、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。</p> <p>②様々な現代的課題を把握し、解決を視野に入れて構想し、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。</p>	<p>①現代社会に見られる課題の解決をはかろうとする態度を備えることができる。</p>

学習方法

(1) 授業を大切にしよう。

- ① 授業に積極的に参加しましょう。教員の話をよく聞き、メモをとるくせをつけてください。
- ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしましょう。

(2) この科目では、課題への取り組みがとりわけ重視され、成績評価の中でも重きを置かれます。

調べもの、調査、グループワーク、ワークシート、レポート、スピーチ、プレゼンテーションなど様々な形の課題が課せられます。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、社会科にとって大切な訓練です。

(3) ふとした疑問を大切にしましょう。

なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか。町で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がまずいこと、もっと適切な説明があることはままあります。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれません。「なぜ」にこだわって調べるのは、様々な学問が大切にすることも基本的なアプローチです。

(4) 自分のこだわりや、感性を大切にしましょう。

他の人にはない、あなたのオリジナリティをもって問題解決を提案することが重視されます。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

第3学年<週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	◆現代的諸課題と地理 ・日本と世界の地域の諸課題 ・GISと巨大プラットフォーム企業の戦略 ・ツーリズムと地域社会・文化遺産	ア. 扱う課題の内容に応じた地理的・歴史的・公民的な基本的知識を備え、課題に即して、教科書内容を超えて詳細かつ高度な知識や概念を身につけている。	【評価の観点】 ・社会事象に関する知識・理解 ・社会事象を理解・解釈するための技能 ・社会事象についての思考・判断・表現 ・社会探究の学習に主体的に取り組み、社会探究で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、社会的な見方、考え方、社会についての判断や表現、社会に関する知識や理解、技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。
2 学期	◆現代的諸課題と歴史 ・社会的課題と歴史 ・外交的課題と歴史	ア. 地図・GIS・統計・図表・年表・史資料などを用いて、課題の解決に必要な社会的情報を読み取り、まとめる技能を身につけている。 イ. 他者との協業様々な現代的課題に関連し、社会概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。	
3 学期	◆金融経済教育 ・起業シミュレーション ・株取引シミュレーション ◆法教育 ・模擬法廷 ・ルールメイキング ◆SDGsと私たちの生活 ・貿易ゲーム ・企業活動とSDGs ・NPOとSDGs	イ. 様々な現代的課題を把握し、解決を視野に入れて構想し、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 ウ. 現代社会に見られる課題の解決を、学んだ地理的・歴史的・公民的な知識・概念や見方・考え方を活用し、主体的に課題の解決をはかることによって、様々なレベルの社会に対する貢献をはかろうとする態度を備えることができる。	

			<p>(2)小テストの成績，ノート，レポート，ワークシート，コメントペーパー，振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。</p> <p>(1)・(2)のいずれか、あるいは両方を総合的に評価する。(定期考査を実施しないこともある。)</p>
--	--	--	---

※学習内容・項目はあくまでも例示であり、生徒の関心、担当教員の専門分野などにより、その都度変更する。

中学校 数学科 シラバス

3年間のねらい、学習目標

小学校で学んだ「算数」は、中学から「数学」という名前が変わります。では、「算数」と「数学」の大きな違いはどこにあるのでしょうか。

大きな違いは2つあります。1つは扱う数の世界の拡張、もう1つは文字の利用です。扱う数の世界については、

- ① 1年生で負の数 ② 2年生で平方根 ($\sqrt{\quad}$)

を導入します。また、文字の表す意味はさまざまあり、主に、

- ① 未知数 ② 一般的な数 ③ 任意（自由に選んでよい）の定数 ④ 変数

です。

数学は端的に言えば、「自然科学・社会科学を記述するための言語である」と言えるでしょう。イタリアの天文学者であるガリレオ・ガリレイも、「宇宙という本は数学という言語で書かれている」と指摘しています。その意味で、数の世界の拡張、文字の利用が必要です。物体の運動、星の運動、化学物質の構成やそれらの反応を分析するなどの自然科学分野だけにとどまらず、コンピュータや携帯電話の内部構造、暗号を用いたメールの送受信、アンケートの集計結果から全体の様子を知る、などさまざまな場面で数学が「言語」として用いられています。

数学を学習することによって、計算力、論理的思考力、発想力、創造力などが身につく、筋道をたてて論理的に思考し、その論理に基づいて表現する能力（論証力）が養えます。これらの力を利用して、宇宙などの自然界の様子から人間の社会の仕組みまで見ることが出来ます。数学は必要不可欠な教科ですので、しっかり学習していきましょう。

数学の学習は、よく「積み重ねが重要」と言われます。積み重ねがなくても自由に楽しめる数学の分野も一部ありますが、やはり中学で学ぶ基礎の積み重ねが高校・大学へつながり、さらにその先には最先端の研究が待っている、という意味では、積み重ねが重要です。

したがって、できるだけ積み残しがないよう綿密な指導を行いながら、先に述べたような数学の基礎となる力をバランスよく身につけてもらいたいと考えています。その結果、数学という「言語」を自由に使うことができ、数学の楽しさ・奥深さを体験してもらいたいと考えています。

第1学年	教科書	「未来へ広がる数学1」（啓林館）
数学 (週4時間)	副教材	「体系数学1 代数編」・「体系問題集数学1 代数編【発展】」 「体系数学1 幾何編」・「体系問題集数学1 幾何編【発展】」 (数研出版)

学習到達目標

1. 話をよく聞きながら理解し、板書を写す。また、わからないところは積極的に質問できる。
2. 決められた期限までに課題等の提出ができる。
3. 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることの意義や方程式の意味を理解するとともに、数量などの関係や法則を一般的に表現し処理することができる。
4. 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察することができる。
5. 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに粘り強い取り組みを行うことができる。
6. うまく答えを導けないときには、もう一度問題文に戻り、自分がとった解法が正しいかを振り返り、その方法では解決が難しいと判断すれば、どの地点に戻って考え直すかを吟味し、それを見極めて再び問題に挑むことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学の事柄として結び付け、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。

学習方法

1. 授業を大切にしよう。
 - ① 学習の基本は授業である。常に真剣な気持ちで取り組むこと。
 - ② 予習→授業→復習のサイクルが大切。授業は1回目の復習という意識を持とう。
 - ③ 始業のチャイムが鳴るまでに授業の準備をし、着席して待機していること。
2. 数学の楽しさ・面白さを意識しよう
 数学の面白さは、解までの道筋が論理的に明らかであいまいさがないことである。誰がみても正しいことは正しく、間違っていることは間違っている。このことが好きな人もいればそうでない人もいるだろう。しかし、はじめから苦手意識を持っていては、数学をおもしろいとは感じない。中学入学をきっかけに、新鮮な気持ちで数学に取り組んでもらいたい。考えることを楽しみ、数学を楽しもう。
3. 必ず予習・復習をしよう
 数学は計算も重要だが、なぜそうなるのかの論理を理解しないと本当に理解したとはいえない。日々の授業で「わかった」と感じるためには、その前後に論理をじっくり考えるための時間が必要である。家庭学習で予習をやった上で授業に臨むと、授業の内容がわかりやすいはずである。授業は1回目の復習である。さらに、授業で理解できなかったところを友人にきいたり先生に質問して理解するようにしたり、もう一度自分で考えてみて理解しているかどうかを確認したりするとよい。きちんと復習することが次の授業内容の理解へつながっていく。
4. 必ず自分で解こう
 数学の勉強では、答えを眺めてわかったつもりになっても、実際に問題を解くと解けないこと（書けないこと）がよくある。確かにいちいち計算するよりも、解答を眺めて解法を理解し覚えていく作業の方が楽だし、とりあえず勉強した気分にはなる。しかし、それでは数学の力を伸ばしていくことは難しい。数学の勉強をするときには、必ずノートにきちんと計算したり図を描いたりしながら解いていくようにしてほしい。そうすることで、自分自身が本当に理解できているかどうかを確認することができ、自分の力を伸ばしていくことにつながっていく。「急がば回れ」と思って頑張ろう。
5. 計算力をつけよう
 数学は論理と計算によって解を導くものである。論理を考えることは何より大切だが、計算がきちんとできないと解には到達しない。内容を理解した上で確実な計算力を養っていくことは数学ができるようになるための必要条件である。高い目的意識を持って問題を解いていけば、必ず計算力は身につけていくはずである。また、計算では反復練習が重要である。
6. わからない問題でもあきらめない
 わからない問題にぶつかったとき、簡単にあきらめてはいけない。解けない問題を解こうとする過程が大切であり（解けなかったとしても、考える過程は決して無駄にはならない）、それが本当の勉強であり力を伸ばす源となる。難しい問題が解けたときは本当にうれしいものである。どうしてもわからない問題があつたら、遠慮せずに質問に来ること。絶対にそのままにしておかないことが大切である。疑問点を解決して、自分でできるようになったとき、数学の力がきつと伸びている。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週4時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学 期	<p>1. 導入</p> <p>2. 正の数と負の数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正の数と負の数 ・加法と減法 ・乗法と除法 ・四則の混じった計算 <p>3. 式の計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字式 ・多項式の計算 ・単項式の乗法と除法 ・式の値 ・文字式の利用 <p>4. 方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方程式とその解 ・1次方程式の解き方 	<p>中学校における数学について、学習の意義や内容を理解する。授業の進め方やノートの取り方、課題の提出や評価の方法について確認する。</p> <p>数の範囲を拡張して、計算の可能性をひろげ、数についての処理がいつそう手際よくできるようにする。</p> <p>そのために、</p> <p>ア. 負の数の意味を理解し、正の数・負の数の必要性和有用性を知る。</p> <p>イ. 素数の意味と、素因数分解のしかたを相互に関連付けて理解する。</p> <p>ウ. 正の数・負の数の四則計算の方法を考察し表現する。</p> <p>エ. 正の数と負の数を具体的な場面で活用する。</p> <p>文字を使って、数量や数量の間の関係を一般的に表したり、計算法則を簡潔に表したりすることを通して、文字を用いることよさや必要性に気づく。また、表された式を読んだり、式を計算することを通して、文字の式を利用するための基礎的な処理の方法を身につける。</p> <p>そのために、</p> <p>ア. 文字を使って、数量や計算法則を式にしたりして、文字の式の意味について理解する。</p> <p>イ. 文字を使った式の表し方を理解し、それに基づいて式をつくったり、表された式の意味を読み取ったり、文字に値を代入して式の値を求めたりして、文字の式の理解を深める。</p> <p>ウ. 具体的な場面と関連付けて、式の加減の計算ができるようにする。また、式に数をかけることや式を数でわることができるようにする。</p> <p>エ. 数量の間の関係を等式に表すことができるようにする。</p> <p>オ. 単項式や多項式の加法、減法の計算方法を考察し表現する。</p> <p>カ. 単項式どうしの乗法、除法の計算方法を考察し表現する。</p> <p>キ. 式を用いて整数の性質を説明したり、目的に応じて簡単な等式を変形することができるようにする。</p> <p>ク. 文字を用いた式を具体的な場面で活用する。</p> <p>文字を含む等式から、文字の値を求める方法を理解し、これを用いることによって、実際の問題が形式的、能率的に処理できることを知り、さらにその方法が活用できるようにする。</p>	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的な知識・技能 ・数学的な思考・判断・表現 ・主体的に学習に取り組む態度 <p>【評価方法】</p> <p>1. 定期考査の成績</p> <p>定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題する。</p> <p>2. 学習態度等の平常点</p> <p>(1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。</p> <p>(2) 課題ノートやレポートの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p> <p>【補講】</p> <p>復習テスト・定期考査等の成績不振者を対象に、以下の補講を実施する。</p> <p>(1) 週1回、平日の7限目</p> <p>(2) 長期休暇中</p> <p>約50名を対象に実施するが、時により変動する可能性がある。また、(1)(2)以外にも必要に応じて補講、追試等を実施する可能性がある。</p>
-------------	--	---	--

		<p>そのために、</p> <p>ア. 方程式とその解の意味を理解する。</p> <p>イ. 等式の性質を見だし、それを利用して式を変形することで、方程式が解けることを知る。</p> <p>ウ. 一元一次方程式の解法を考察し表現する。</p>	
2 学 期	<p>1. 方程式(続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1次方程式の利用 ・ 連立方程式 ・ 連立方程式の利用 <p>2. 1次関数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 変化と関数 ・ 比例とそのグラフ ・ 反比例とそのグラフ ・ 比例, 反比例の利用 <p>3. 平面図形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平面図形の基礎 ・ 図形の移動 ・ 作図 ・ 面積と長さ 	<p>エ. 方程式を利用して問題解決ができるようにする。</p> <p>オ. 2つの文字を含む等式から文字の値が求められることを知る。</p> <p>カ. 連立方程式とその解の意味を理解する。</p> <p>キ. 一元一次方程式と関連付けて、連立方程式の解法を考察し表現する。</p> <p>ク. 連立方程式を問題解決に利用することができるようにする。</p> <p>具体的な事象の中にあるともなって変わる2つの数量に注目して、比例や反比例の関係を見だし、その変化や対応のようすを考察することを通して理解を深め、利用できるようにする。</p> <p>そのために、</p> <p>ア. 具体的な事象の考察を通して、比例, 反比例の意味を理解する。</p> <p>イ. 座標の意味を理解する。</p> <p>ウ. 比例, 反比例を表, 式, グラフなどで表し、それらの特徴を理解する。</p> <p>エ. 比例, 反比例の見方や考え方を、具体的な事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>オ. 比例, 反比例として捉えられる2つの数量について、表, 式, グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだせるようにする。</p> <p>いろいろな平面図形について、観察, 操作, 実験を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深め、基礎的な知識・技能を習得して、それらを活用する能力を伸ばす。</p> <p>そのために、</p> <p>ア. 直線, 線分, 角の意味や表し方を理解するとともに、垂直, 平行, 多角形などについて理解する。</p> <p>イ. 線対称, 点対称な図形の意味とそれらの性質について理解する。</p> <p>ウ. 図形の性質や図形の移動に着目し、作図の方法や2つの図形の関係について考察し表現する。</p> <p>エ. 円やおうぎ形についての基本的な用語の意味を知り、その表し方を理解するとともに、中心角と弧の関係や</p>	

		<p>合同などについて理解する。</p> <p>オ. おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができるようにする。</p>	
3 学 期	<p>1. 空間図形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな立体 ・ 空間における平面と直線 ・ 立体のいろいろな見方 ・ 立体の表面積と体積 <p>2. データの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データの整理 ・ データの代表値 ・ データのちらばりと四分位範囲 <p>3. 確率と標本調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事柄の起こりやすさと確率 	<p>観察, 操作, 実験を通して, 空間図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに, 空間図形の性質について論理的に考察する能力や, 立体の計量についての能力を高める。</p> <p>そのために,</p> <p>ア. いろいろな立体やその見取図, 展開図についての観察, 操作, 実験を通して, 柱体や錐体についての理解を深める。</p> <p>イ. 空間における平面や直線の位置関係を理解する。</p> <p>ウ. 平面図形や直線が動いたときにできる図形とその性質について理解する。</p> <p>エ. 柱体, 錐体や球の表面積や体積とその求め方を考察し表現する。</p> <p>目的に応じて資料を収集し, コンピュータなどの情報手段を用いたりして表やグラフに整理し, 代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることができるようにする。</p> <p>そのために,</p> <p>ア. ヒストグラムや, 累積度数, 累積相対度数などの必要性と意味を理解する。</p> <p>イ. コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理する。</p> <p>ウ. 目的に応じてデータを収集して分析し, データの分布の傾向を読み取り, 批判的に考察し判断する。</p> <p>エ. 四分位範囲や箱ひげ図の必要性や意味を理解し, それらを求められる。</p> <p>オ. 箱ひげ図をかきデータの分析を考察することができる。</p> <p>偶然事象の生起の程度を数値化する方法について考察し, 確率の意味を理解する。</p> <p>そのために, 多数回の試行の結果によって得られる確率の必要性と意味を理解し, 不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現する。</p>	

第2学年 数学 (週5時間)	教科書	「未来へ広がる数学2」(啓林館)	
	副教材	「体系数学1 代数編」・「体系問題集数学1 代数編【発展】」	「体系数学1 幾何編」・「体系問題集数学1 幾何編【発展】」
		「体系数学2 代数編」・「体系問題集数学2 代数編【発展】」	

学習到達目標

1. 数学の楽しさや奥深さ、数学的な見方や考え方のよさを知り、積極的に活用する態度を養う。
2. 数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数学的に考察することができる。
3. 平面図形の性質について、図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法を理解し、推論の過程を的確に表現することができる。また、筋道を立てた考え方の必要性を感じ取り、数学的な論証に関心を持つ。
4. 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに粘り強い取り組みを行うことができる。
5. うまく答えを導けないときには、もう一度問題文に戻り、自分がとった解法が正しいかを振り返り、その方法では解決が難しいと判断すれば、どの地点に戻って考え直すかを吟味し、それを見極めて再び問題に挑むことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学の事柄として結び付け、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。

学習方法 第1学年の項を参照。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<数学①(代数, 週3時間)>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 不等式 <ul style="list-style-type: none"> ・不等式の性質 ・不等式の解き方 ・不等式の利用 ・連立不等式 2. 1次関数 <ul style="list-style-type: none"> ・1次関数とそのグラフ ・1次関数と方程式 	不等式について理解し、一次不等式の解を求めたり一次不等式を事象の考察に活用したりする。 そのために、 ア. 不等式の意味を理解し、数量の間の大小関係を不等式で表すことができるようにする。 イ. 不等式の解と解くことの意味を理解し、不等式の性質を正しく理解する。 ウ. 不等式の性質をもとに一次不等式を解くことができるようにする。 エ. 一次不等式を文章題に応用することができるようにする。 オ. 連立不等式を解くことができるようにする。 変化や対応についての見方や考え方をいっそう深めるとともに、事象の中から一次関数を見だし、これを用いることができるようにする。	【評価の観点】 <ul style="list-style-type: none"> ・数学的な知識・技能 ・数学的な思考・判断・表現 ・主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1次関数の利用 	<p>そのために、</p> <p>ア. 一次関数の意味を理解し、身のまわりの事象の中から、一次関数とみられるものを見つけることができるようにする。</p> <p>イ. 一次関数として捉えられる2つの数量について、変化や特徴を理解し、考察して一次関数のグラフがかけられるようにする。</p> <p>ウ. 直線が与えられているとき、その直線の式が求められるようにする。</p> <p>エ. 一次関数のグラフと二元一次方程式のグラフとの関係や連立方程式の解とグラフとの関係を明らかにする。</p> <p>オ. 具体的な事象を一次関数と見なし、それを問題解決に利用することができるようにする。</p>	<p>(2) 課題ノートやレポートの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p> <p>【補講】 復習テスト・定期考査等の成績不振者を対象に、以下の補講を実施する。 (1) 週1回、平日の7限目 (2) 長期休暇中 約50名を対象に実施するが、時により変動する可能性がある。また、(1)(2)以外にも必要に応じて補講、追試等を実施する可能性がある。</p>
2 学期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確率と標本調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 場合の数 ・ 確率の計算 ・ 標本調査 2. 式の計算 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多項式の計算 ・ 因数分解 ・ 式の計算の利用 	<p>偶然事象の生起の程度を数値化する方法について考察し、確率の意味を理解する。また、簡単な場合について確率を求めることができるようにする。</p> <p>そのために、</p> <p>ア. 先験的に確率が考えられる事象を、実験的な方法で確かめる過程を通して、確率の意味を明らかにする。</p> <p>イ. 簡単なことがらについて、起こり得る場合を順序よく整理して調べられるようにする。</p> <p>ウ. 同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現する。</p> <p>エ. 確率を用いて不確定な事象を捉え、考察し表現する。</p> <p>オ. 標本調査の必要性和意味を理解する。</p> <p>式を扱いやすい形に変える方法として、展開したり、因数分解したりすることを理解し、式を見通しをもって効率的に活用できるようにする。</p> <p>そのために、</p> <p>ア. 多項式と単項式の乗除について理解し、多項式の積の展開のしかたについて考察し表現する。</p> <p>イ. 乗法公式を用いて、一次式の積の展開ができるようにする。</p> <p>ウ. 数の素因数分解の意味と多項式を因数分解することの意味を理解し、共通因数をとり出したり、乗法公式を用いたりして因数分解を考察し表現する。</p> <p>エ. 問題解決に式の展開や因数分解を利用することができるようにする。</p>	

3 学 期	<p>1. 平方根</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平方根 ・根号を含む式の計算 ・有理数と無理数 ・近似値と有効数字 	<p>数の平方根について理解し、数の概念の理解をいっそう深めるとともに、数を用いてものごとをいっそう広く考察・処理することができるようにする。</p> <p>そのために、</p> <p>ア. 新しい数の存在を知り、その数の必要性和意味を理解し、数の概念をひろめる。</p> <p>イ. 数の平方根の意味を理解し、電卓などを用いてその近似値を求めることができるようにする。</p> <p>ウ. 数の平方根の中には、限りなく続く小数でしか表せない数があることを知り、数直線上の数についての理解を深める。</p> <p>エ. 根号をふくむ簡単な式の計算や変形を考察し表現する。</p> <p>オ. 数直線上の数を、有理数と無理数に分けそれぞれの定義を理解する。</p> <p>カ. 数の平方根を具体的な場面で活用する。</p> <p>キ. 有効数字、誤差の求め方について理解する。</p>	
-------------	---	---	--

< 数学② (幾何, 週 2 時間) >

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	<p>1. 図形の性質と合同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行線と角 ・多角形の内角と外角 ・三角形の合同条件 ・証明 <p>2. 三角形と四角形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二等辺三角形 ・直角三角形の合同 	<p>図形の性質を調べる上で、基礎となる見方・考え方や基本的性質を明らかにし、論証の意義と推論の進め方について理解する。</p> <p>そのために、</p> <p>ア. 対頂角の性質、平行線と角の関係について調べる。</p> <p>イ. 三角形の内角の和について調べ、それらをもとに多角形の角について調べる。</p> <p>ウ. 合同な図形の性質、三角形の合同条件などを明らかにする。</p> <p>エ. 「証明」することの意義としくみについて理解する。</p> <p>オ. 平行線と角の関係や三角形の合同条件を根拠にした証明の進め方や図形の性質の調べ方について理解する。</p> <p>平行線についての性質や三角形の合同条件を根拠にして、三角形、平行四辺形の性質を調べ、それらを活用することができるようにする。また、これらを通して、図形の論証に対して興味・関心をもち、筋道を立てて考える態度を身につける。</p> <p>そのために、</p> <p>ア. 三角形の合同条件を使って、二等辺三</p>	<p>評価方法については、数学①の欄を参照。</p>

		<p>角形の性質を証明し，図形の性質の調べ方を理解する。</p> <p>イ. 直角三角形の合同条件を導き，その使い方を理解する。</p>
2 学 期	<p>1. 三角形と四角形（続き）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形 ・平行線と面積 ・三角形の辺と角 <p>2. 図形と相似</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相似な図形 ・三角形の相似条件 ・平行線と線分の比 	<p>ウ. 平行四辺形の性質や平行四辺形になる条件，他の四角形の性質，平行線による等積変形などについて理解する。</p> <p>エ. 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。</p> <p>オ. 三角形の辺と角の大小関係について理解する。</p> <p>図形の相似の概念を明らかにし，三角形の相似条件をもとにして図形の性質についての理解をいっそう深めるとともに，相似の考え方が活用できるようにする。</p> <p>そのために，</p> <p>ア. 図形の拡大・縮小の意味を知り，それをもとに図形の相似の意味と相似な図形の性質を理解する。</p> <p>イ. 三角形の相似条件を知り，それを使って図形の性質を証明することができるようにする。</p> <p>ウ. 平行線と線分の比についての性質を見だし，これを活用することができるようにする。</p>
3 学 期	<p>1. 図形と相似（続き）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中点連結定理 ・相似な図形の面積比，体積比 ・相似の利用 <p>2. 線分の比と計量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の重心 ・線分の比と面積の比 ・チェバの定理 ・メネラウスの定理 	<p>エ. 三角形の中点連結定理を理解する。</p> <p>オ. 相似な図形の相似比と面積比・体積比の関係について理解する。</p> <p>線分の比の性質をもとにして，さまざまな図形の性質について理解する。</p> <p>そのために，</p> <p>ア. 三角形の重心の意味を知り，その性質を理解する。</p> <p>イ. 高さが一定である2つの三角形の底辺の長さの比と面積の比の関係について理解する。</p> <p>ウ. チェバの定理について理解する。</p> <p>エ. メネラウスの定理について理解する。</p>

第3学年 数学 (週5時間)	教科書	「未来へ広がる数学3」(啓林館)
	副教材	<p>「体系数学2 代数編」・「体系問題集数学2 代数編【発展】」</p> <p>「体系数学2 幾何編」・「体系問題集数学2 幾何編【発展】」</p> <p>「体系数学3 論理・確率編」・「体系問題集数学3 論理・確率編【発展】」</p> <p>「体系数学3 数式・関数編」・「体系問題集数学3 数式・関数編【発展】」</p>

学習到達目標

1. 数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、積極的に活用する態度を養う。
2. 関数や図形、集合と論理及び場合の数と確率などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し、それらを的確に処理活用できるようにする。
3. 中学内容の基本的な概念や公式を復習し、それらを扱った基本問題や代表的な問題の解法を確実に身につける。
4. 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに粘り強い取り組みを行うことができる。
5. うまく答えを導けないときには、もう一度問題文に戻り、自分がとった解法が正しいかを振り返り、その方法では解決が難しいと判断すれば、どの地点に戻って考え直すかを吟味し、それを見極めて再び問題に挑むことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学の事柄として結び付け、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。

学習方法 第1学年の項を参照。

年間シラバス

<数学① 週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講・備考
1 学期	1. 2次方程式 ・2次方程式の解き方 ・2次方程式の利用 2. 関数 $y = ax^2$ ・関数 $y = ax^2$ ・関数 $y = ax^2$ のグラフ ・関数 $y = ax^2$ の値の変化	二次方程式やその解法を理解し、二次方程式を用いて実際の問題を解決できるようにする。 そのために、 ア. 二次方程式の必要性とその解の意味を理解する。 イ. 平方根を求める方法で $ax^2 = b$, $(x+m)^2 = n$ の形の二次方程式を解く方法を考察し表現する。 ウ. 因数分解を利用して二次方程式を解く方法を考察し表現する。 エ. 解の公式を利用して二次方程式を解くことができるようにする。 オ. 二次方程式を問題解決に利用することができるようにする。 具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばす。	【評価の観点】 ・数学的な知識・技能 ・数学的な思考・判断・表現 ・主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。 (2) 課題ノートやレポー

	<ul style="list-style-type: none"> 関数 $y = ax^2$ の利用 いろいろな関数 	<p>そのために、</p> <p>ア. 事象の中には関数 $y = ax^2$ として捉えられるものがあることを知る。</p> <p>イ. 関数 $y = ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の変化や特徴を理解し、考察して関数 $y = ax^2$ のグラフがかけられるようにする。</p> <p>ウ. 関数 $y = ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現する。</p>	<p>トの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p> <p>【補講】 復習テスト・定期考査等の成績不振者を対象に、以下の補講を実施する。 (1)週1回、平日の7限目 (2)長期休暇中 約50名を対象に実施するが、時により変動する場合がある。また、(1)(2)以外にも必要に応じて補講、追試等を実施する場合がある。</p>
2 学 期	<p>1. 数と式</p> <ul style="list-style-type: none"> 多項式 因数分解 多項式の割り算 分数式 実数 	<p>ア. 単項式、次数、係数、多項式、項、整式など、式についての用語の意味を理解する。また、特定の文字に着目することや、同類項、整式とその整理、次数、定数項など、整式を整理するなかで、式についての見方を豊かにする。</p> <p>イ. 整式の加法・減法、指数法則、整式の乗法、多項式の乗法公式などの基本的な計算ができる。また、式の一部を1つの文字のようにみなしたり、積の順序を工夫するなど、見通しをもって能率よく計算ができるようにする。</p> <p>ウ. 展開公式と関連させて、因数分解の公式が利用できる。また、式の一部を1つの文字のようにみなしたり、1つの文字について整理するなど、見通しをもって能率よく計算ができるようにする。</p> <p>エ. 整式の除法では商や余りを求めることができるようにするとともに、与えられた整式と商・余りの関係を理解する。</p> <p>オ. 分数式の約分・通分や分母が2次程度の分数式の四則計算が自由に行える。</p> <p>カ. 自然数、整数、有理数、無理数の意味がわかり、実数について理解する。また、絶対値の定義をもとに絶対値記号を含む式の計算ができるようにする。また、絶対値を含む方程式・不等式を解けるようにする。</p>	
3 学 期	<p>1. 集合と論理</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合 命題と条件 命題と証明 集合の要素の個数 	<p>集合と命題に関する基本的な概念を理解して、それらを活用できるようにする。</p> <p>そのために、</p> <p>ア. 集合の表現方法や基本的性質を理解する。</p> <p>イ. 命題の真偽と真理集合の包含関係が対応することを理解し、命題の真偽が判断できるようにする。また、必要条件、十分条件、必要十分条件お</p>	

		よび同値について理解する。 ウ. 命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し、それらの真偽を判断できるようにする。また、対偶による証明法や背理法のしくみを理解する。 エ. 集合の要素の個数の公式を利用でき、具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求めることができるようにする。	
--	--	---	--

<数学② 週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講・備考
1 学期	1. 円 ・外心と垂心 ・円周角 ・円に内接する四角形 ・円の接線 ・接線と弦のつくる角 ・方べきの定理	観察，操作や実験などの活動を通して，円について理解を深め，それを事象の考察に活用できるようにする。 そのために， ア. 円周角と中心角の関係の意味を理解し，それが証明できることを知る。また，円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用する。 イ. 円に関する代表的な性質を理解する。 ウ. 方べきの定理を活用して図形に関する問題を解く。	評価方法については，数学①の欄を参照。
2 学期	1. 円(続き) ・2つの円 2. 三平方の定理 ・三平方の定理 ・三平方の定理と平面図形 ・三平方の定理と空間図形	エ. 2つの円の位置関係や円と共通接線との関係について理解する。 観察，操作や実験などの活動を通して，三平方の定理を見いだして理解し，それをを用いて考察することができるようにする。 そのために， ア. 三平方の定理の意味を理解し，それが証明できることを知る。 イ. 三平方の定理を利用して図形の性質を考察し表現する。	
3 学期	1. 中学内容の総復習	これまでに学習した代数，幾何のすべての内容を復習する。	

中学校 理科 シラバス

3年間のねらい、学習目標

中学校では、小学校で学習した具体的な内容を発展させながら、目で見たり、触ったりすることができない抽象的な内容について学習内容を広げながら、さまざまなものや現象について深く考えていく。理科の学習内容は、「物質」、「エネルギー」、「地球」、「生命」の4つの領域から構成されているが、本校ではそれらを2つの分野（第1分野・第2分野）に分けて、体系的に学習するカリキュラムを構築している。

理科第1分野では、ものを「物質」と「エネルギー」の2方向から学習することをねらいとしている。まず、「物質」という目線で自然界を見ると、すべてのものが、原子ができていくというところにたどり着く。そのすべてのもととなる「原子」の構造を理解することにより、これら物質の仕組みは霧が晴れるようにわかってくる。自然界の多様性は、物質の変化に基づいているが、これも「原子」の離合集散により説明ができる。中学3年間を通して、初期段階で「原子」の基礎概念をしっかりと確立し、その上で、すべての自然の事物・現象、様々な物質の変化を「原子」レベルで科学的に見る力を身につける。次に、「エネルギー」という面で自然界を見ると、すべてのものに通じ、とても適用範囲の広い原理や法則をさぐることができる。身のまわりのあらゆるものや現象が、あまりに単純な原理や法則によって説明できるようになる。中学校3年間を通して、原理を基礎にした論理のほうが、あらゆる自然現象を説明するのにはずっとすぐれていることを体験し、自分でもそのような科学上の概念を使える力を身につける。

理科第2分野では、身の回りの現象を「地球」と「生命」の2方向から学習することをねらいとしている。私達が暮らす「地球」は、約46億年前に宇宙空間にある塵やガスがもとになって誕生した。誕生したときは溶融したマグマの固まりであった地球は、46億年という長い歴史の中で、大気ができ、海ができ、やがて「生命」が誕生した。最初は簡単な作りであった生命は、長い地球の歴史の中で少しずつ進化をとげ、現在では何百万種類もの生物が地球上のさまざまな環境の中で生活をしている。この地球の歴史と生物の進化、現在地球上で起こっているさまざまな自然現象を学ぶことにより、自然に対する豊かな感性と知識を身につけ、理解を深める。また、現在生きている動物や植物についての詳しい知識を身につけ、それら生物が持っている特徴からその共通性を認識し、生物自体の根源に迫る。生物の多様性とそれを支えている器官や細胞、さらにDNAという物質にまでその対象を広げて理解を深める。

このように、自然に対する知識と理解を深めていく中で、科学的な見方や考え方を身につける。また、実験・観察を通して、様々なものの性質やその変化の魅力、楽しさを体感する機会を頻繁にもつことにより、ものの特性を学習するだけにとどまらず、目的意識をもって科学的に物事を探求する能力を身につけ、生活と科学がどのように結びついているかを知り、視野を広げる。

また、中学2年生の学習において、探究活動を主体とした授業を学習指導要領に基づいた内容とは別で行う。探究的な活動を行う上では、形式的な思考操作能力が必要であり、「科学的な思考を行うための基礎となる手法や考え方」を獲得させる必要がある。まず、生徒の認知発達段階を促進するような授業プログラムを行うことで、生徒一人ひとりが形式的な思考能力を身につけさせる。形式的な思考能力をもとに探究活動を行うことで、論理的思考の深まりを生み出し、科学的な思考能力の育成につなげることができ、より深い探究活動につながる。

第1学年 理科 (週4時間)	教科書	「未来へ広がるサイエンス1」(啓林館)
	副教材	最新理科便覧 大阪府版 (浜島書店)

学習到達目標

1. すべての物質のもととなる原子の存在を理解し、原子・分子のレベルでさまざまな自然現象に対しての認識を深める。

- 光や音、力のはたらきについて、実験を通じて原理や法則を導いていく力を養う。
- 花を咲かせる植物についての観察を通して、生物の調べ方の基礎を身につけるとともに、実際の植物の体のつくりを理解し、植物の分類、さらに化石植物から植物の進化について理解を深める。
- 植物の観察を通して、器官、細胞、細胞分裂、さらに光合成へと認識を深め、地球に酸素が形成されてきた歴史を学ぶ。また、化石の観察を通して生物の進化についての認識を深める。
- 世界中で起こるダイナミックな大地の変動に触れ、それらの特徴をしっかりとらえて仕組みを理解することで、自然に対する興味や関心高めるとともに、科学的な見方や考え方を身につける。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習方法

教科書・授業プリントに沿った講義を中心とし、観察・実験を授業の中で多く取り扱うことで、基礎的・基本的な学習内容について理解を深める。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<理科①> (週2時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. いろいろな物質とその性質 ①身近にあるもの 【実験】 天びんの使い方 ②密度 ③原子 ④原子記号 2. 光と音 (1) ①光の進み方 【実験】 光の屈折 ②凸レンズの性質 【実験】 凸レンズで作られる像 ③音の伝わり方 ④音の要素 【実験】 モノコード	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものの性質を知り、物質を見分けることができる。 天びんの使い方がわかる。 密度を求められるようになる。 すべての物質は原子でできていることがわかり、原子を原子記号で表せる。(身近な原子約30種類) ものが見えるのは、光によるものだということがわかる。 光の進み方には、物質境界での反射・屈折という特有な進み方があり、これらにより「像」という現象を説明できる。 凸レンズによる像のでき方(位置・大きさ)には法則性があることがわかる。(生徒実験を含む) 音は、ものの振動が物質を伝わる現象であり、物質のないところでは伝わらないことがわかる。 音の高さや大きさは、音さや弦の振動数や振幅があらわれたものであり、それらがどんな条件によって変わるかを指摘できる。 	【評価の観点】 <ul style="list-style-type: none"> 自然科学に対する知識、観察や実験に対する技能 自然現象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 主体的に自然現象と関わり、科学的に探究しようとする態度 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> 実験レポート ノート提出 定期考査
2 学 期	3. いろいろな気体とその性質 ①気体の特性	<ul style="list-style-type: none"> 気体の種類による特性を見いだすとともに、気体を発生させる方法や捕集法 	

期	【実験】 気体の発生 ②分子の存在 ③化学式 4. 水溶液の性質 ①水に溶けるとは ②水溶液の濃度（%の計算） ③ろ過 【実験】 ろ過 ④溶解度と再結晶 【実験】 再結晶	などの技能を身につける。 ・気体を発生させてその性質を調べる実験を行う。 ・気体の分子を化学式で表せられる。 ・パーセント濃度の計算ができる。 ・ろ過・溶解度、再結晶実験などを適切な手順・方法で行える。 ・ガスバーナーで適切な炎の強さを調節できる。 ・溶解度のデータを元に溶解度曲線を描くことができる。
	5. 物質の状態とその変化 【実験】 液体窒素を使った実験 ①液体・気体の変化と沸点 ②固体・液体の変化と沸点 【実験】 赤ワインの蒸留	・どんな物質でも固体・液体・気体の状態があることがわかる。 ・同じ種類物質は、沸点、融点が同じであることがわかる。 ・原子・分子のレベルで状態変化が理解できる。
3 学 期	6. 力のはたらき（1） ①力の原理 ②抗力（反作用の力） ③力のおよぼしあい ④力のつりあい 【実験】 力がつり合う条件 ⑤フックの法則 【実験】 力とばねの伸び	・物体の変形や運動のようすの変化から、力を見つけることができる。 ・物体が動き出すか動き出さないかを支配しているのは、力のつりあいであることがわかる。 ・2物体のあいだにはたらく力について表現できる。 ・ばねに加わる力の大きさとばねの伸びの関係を理解する。

<理科②>（週2時間）

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 花の作りと植物分類 ①タンポポとキク科 ②マメ科と複葉 ③イネ科の花と単子葉 ④胚珠について ⑤花の咲かない植物 【観察】 コケの体 【観察】 維管束の観察 ⑥シダから裸子植物へ 2. 植物と細胞 ①細胞でできているからだ 【観察】 植物の観察 【観察】 バナナのデンプン ②光合成について 【実験】 光合成で消費される二酸化炭素 【実験】 光合成によって発生する酸素	・実験室の正しい使い方を身につける。 ・いろいろな植物の花のつくりについて観察を行い、顕微鏡などの観察器具の操作、スケッチの仕方、観察記録の仕方などの技能を身につける。 ・花のつくりの基本的な特徴を見いだすとともに、それらを花の働きと関連づけてとらえることができる。 ・花や葉、茎、根の観察記録に基づいて、それらを相互に関連づけて植物の各部の名称と植物の種類を覚える。 ・植物の進化を理解できる。 ・細胞の観察によって組織・器官・細胞の理解を深める。 ・葉緑体の観察を通じて光合成を理解できる。 ・光合成の式を通じて分子量について考えることができる。	【評価の観点】 ・自然科学に対する知識、観察や実験に対する技能 ・自然現象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 ・主体的に自然現象と関わり、科学的に探究しようとする態度 【評価方法】 ・実験レポート ・ノート提出 ・定期考査

2	<p>3. 火山と火成岩</p> <p>①火山の噴出物</p> <p>②火山の形と噴火の様子</p> <p>③火山灰中の鉱物</p> <p>【実習】火山灰の洗い出し</p> <p>④火山岩と深成岩</p> <p>⑤火山岩の種類</p> <p>【観察】火山岩と深成岩</p> <p>⑥プレートと火山の分布</p> <p>⑦火山による災害と恵み</p> <p>4. 地球の歴史と生物進化</p> <p>①地層のでき方</p> <p>【観察】地層の観察</p> <p>②堆積岩</p> <p>【観察】堆積岩の観察</p> <p>③堆積環境の復元</p> <p>④地質構造の形成史</p> <p>⑤地球環境の変遷</p> <p>⑥カンブリア大爆発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・火山噴出物の種類と成因がわかる。 ・マグマの性質による噴火の違いがわかる。 ・火山灰に含まれる鉱物を見分けられる。 ・マグマの冷え方による組織の違いがわかる。 ・マグマの性質と火成岩との関係がわかる。 ・プレート境界と火山分布の関係がわかる。 ・火山噴火の被害例や恩恵を知り、防災意識を高める。 ・風化、侵食、運搬、堆積の仕組みがわかる。 ・地層の積み重なりと広がり認識できる。 ・堆積岩を見分けられる。 ・地層や化石から堆積環境がわかる。 ・地質構造の形成順序を読み取れる。 ・原始地球の環境が変化した仕組みがわかる。 ・生命誕生から無脊椎動物繁栄の歴史を知る。
3 学 期	<p>5. 脊椎動物の進化史</p> <p>①魚類の誕生</p> <p>②両生類の上陸</p> <p>③大型爬虫類の繁栄</p> <p>④哺乳類の多様化</p> <p>⑤ヒトの骨格</p> <p>⑥鳥類の飛行能力</p> <p>【実習】骨格標本の作製</p> <p>⑦骨の構造と成長</p> <p>【観察】骨格標本の観察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・脊椎動物と無脊椎動物の違いがわかる。 ・陸上生活に必要な体のつくりがわかる。 ・大型爬虫類の多様性を知る。 ・哺乳類の歯の役割と骨格を理解する。 ・飛行に必要な体のつくりがわかる。 ・骨と腱、筋肉の運動の仕組みを理解する。 ・骨の役割と成長の過程がわかる。 ・脊椎動物の骨格の共通点と違いがわかる。

第2学年	教科書	「未来へ広がるサイエンス2」(啓林館)
理科 (週5時間)	副教材	最新理科便覧 大阪府版 (浜島書店)

学習到達目標

1. 電流のはたらきを通じて、原理や法則を導いていく力を養う。
2. 磁界について理解し、電流との関わりについても考える力を養う。

3. 化学変化を原子・分子レベルで理解し、化学反応式で表せるようになる。
4. 気象の観察、観測を通して、気象要素と天気の変化の関係を見いだすとともに、気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての認識を深め、天気の変化を予測できるようになる。
5. 天体の観察を通して、太陽や月、惑星の運動と見え方を理解し、太陽系の仕組みを理解する。さらに太陽系や銀河を構成している恒星の特徴を学び、太陽系の歴史や宇宙についての認識を深める。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習方法

教科書・授業プリントに沿った講義を中心とし、観察・実験を授業の中で多く取り扱うことで、基礎的・基本的な学習内容について理解を深める。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<理科①> (週2時間)

学期	学習内容	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 電流の性質 ①自由電子と電流 ②電気抵抗 【実験】回路中の電流と電圧 ③電気回路とオームの法則 【実験】オームの法則 ⑤電流計と電圧計 ⑥電流の熱作用 【実験】ジュール熱 2. 電流の正体 ①静電気 ②放電現象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導体には電気抵抗とよばれる現象があり、導体の長さや太さによって変わってしまうものであることがわかる。 ・ 電圧(電位差)と電気抵抗、電流の大きさのあいだには決まった関係(オームの法則)があることがわかる。 ・ 複数の電気抵抗が並列や直列につながった複雑な電気回路でも、部分的にはオームの法則が成り立つことを理解することができる。また、電流回路の諸量を計算することができる。 ・ 電流計と電圧計のしくみがわかり、これらを電気回路に正しくつなぐことができる。 ・ 電気回路が発熱するしくみを原子レベルで理解し、発熱量と電流の大きさと電圧との量的関係がわかる。 ・ すべての物質には電気があることがわかり、身の回りの静電気現象を説明できる。 ・ 金属中の電流現象のしくみを、自由電子のモデルを使って説明できる。また、導体と不導体の差異を自由電子の存在によって説明できる。 ・ 電流の正体が電子の流れであることを理解し、空間で電気が流れる放電現象 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然科学に対する知識、観察や実験に対する技能 ・ 自然現象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 ・ 主体的に自然現象と関わり、科学的に探究しようとする態度 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実験レポート ・ ノート提出 ・ 定期考査

		を説明することができる。	
2 学期	<p>3. 電流とその利用</p> <p>①電流と磁界</p> <p>②磁石と磁界</p> <p>【実験】磁界の観察</p> <p>③磁界と力</p> <p>【実験】モーター作り</p> <p>④電磁誘導</p> <p>⑤交流と電磁波</p> <p>4. 金属・非金属と周期表</p> <p>①原子の中</p> <p>②周期表の特徴</p> <p>③金属原子と非金属原子</p> <p>5. 化学変化1 (化合・分解)</p> <p>①化合反応</p> <p>【実験】鉄と硫黄の化合</p> <p>②酸化反応</p> <p>【実験】鉄やマグネシウムの酸化</p> <p>③分解反応</p> <p>【実験】炭酸水素ナトリウムの熱分解</p>	<ul style="list-style-type: none"> 電流のまわりには「磁界」と呼ばれる空間があることがわかる。 磁石のまわりにも「磁界」があることがわかり、磁力線によってそのようすを表現できる。 電流と磁界の相互作用のしくみを説明できるとともに、モーターのしくみを図示できる。 磁界が時間的に変化することで、発電ができることを理解する。 交流の発生させかたと、電磁波が伝わるしくみを、電磁誘導によって説明できる。 原子番号1～20を覚える。 原子のしくみと原子番号の関係がわかる。 価電子数と周期表中の関係がわかる。 金属の特徴を自由電子で説明できる。 周期表における金属原子と非金属原子の位置関係がわかる。 原子・分子のレベルで化学変化が理解できる。 化合・分解実験を適切な手順・方法で行える。 簡単な化学変化を化学反応式で表すことができる。 	
3 学期	<p>6. 化学変化2 (還元・法則)</p> <p>①還元反応</p> <p>【実験】酸化銅の還元</p> <p>②質量保存の法則</p> <p>【実験】密閉容器における気体の発生</p> <p>③定比例の法則</p> <p>【実験】銅やマグネシウムの酸化による定量実験</p>	<ul style="list-style-type: none"> 還元実験を適切な手順・方法で行える。 実験データから化学の基本法則が導き出せる。 原子・分子のレベルで化学の基本法則を説明できる。 	

<理科②> (週2時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	<p>1. 大気と水の動き</p> <p>①大気の圧力</p> <p>②気圧の差と風</p> <p>【実習】気象観測</p> <p>③高気圧と低気圧</p> <p>【実習】天気図の作成</p> <p>④飽和水蒸気量と湿度</p> <p>【実験】露点の測定</p> <p>⑤雲の発生と降雨</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大気圧の大きさを実感する。 風が吹くしくみを理解する。 気温・湿度・風向・風力・天気を観測する。 高気圧・低気圧の中心部の風向がわかる。 等圧線を描き、天気と風を記号で表す。 水蒸気と湿度の関係を理解する。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然科学に対する知識、観察や実験に対する技能 自然現象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 主体的に自然現象

	<p>【実験】雲をつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の湿度を調べることができる。 ・雲の発生のおもしろさがわかる。 ・空気の膨張で雲が発生することを理解する。 	<p>と関わり、科学的に探究しようとする態度</p>
	<p>2. 天気の変化</p> <p>①前線の種類</p> <p>②前線と低気圧</p> <p>【実習】低気圧モデル製作</p> <p>③天気変化の規則性</p> <p>④天気予測</p> <p>【実習】雲の観察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4種類の前線の構造の違いがわかる。 ・前線の通過による天気の変化がわかる。 ・温帯低気圧の立体構造と動きを理解する。 ・天気が規則的に変化することがわかる。 ・天気図から天気の変化を予測できる。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験レポート ・ノート提出 ・定期考査
	<p>⑤日本の天気と気象災害</p> <p>⑥地球大気の組成と構造</p> <p>⑦大気の大循環</p> <p>【実験】水と砂の比熱</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・雲の種類を見分け、天気との関係がわかる ・天気の季節ごとの特徴がわかる。 ・大気の構造がわかる。 ・緯度による大気の動きがわかる。 ・海陸風が生じる仕組みを理解する。 	
2 学 期	<p>3. 天体の見かけの動き</p> <p>①星の日周運動</p> <p>②星の年周運動</p> <p>【実習】星座の動き</p> <p>③太陽の高度変化</p> <p>【実習】天球儀</p> <p>④太陽の南中高度</p> <p>4. 宇宙の中の太陽系</p> <p>①太陽</p> <p>【実習】太陽の黒点観測</p> <p>②月の満ち欠け</p> <p>③太陽系の天体</p> <p>④惑星の動き</p> <p>⑤惑星の特徴</p> <p>⑥太陽系の誕生</p> <p>⑦銀河と宇宙の構造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自転による天体の1日の動きがわかる。 ・公転による星座の移り変わりがわかる。 ・星の日周運動、年周運動を観測する。 ・地軸の傾きによる四季の変化がわかる。 ・天球儀を用いて星の動きを理解する。 ・緯度による南中高度を求められる。 <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の構造がわかる。 ・天体望遠鏡を使って黒点の動きを観測する。 ・月の満ち欠けのおもしろさがわかる。 ・太陽系を構成する天体の種類がわかる。 ・惑星の天球上での動きを理解できる。 ・8つの惑星の特徴がわかる。 ・太陽系と地球の成因がわかる。 ・銀河の構造と宇宙の大きさがわかる。 	
3 学 期	<p>5. 地震</p> <p>①地震のゆれと伝わり方</p> <p>【演習】初期微動継続時間</p> <p>②地球の内部構造</p> <p>③断層の種類</p> <p>④プレートと地震の分布</p> <p>⑤震災と防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の規模や震度、伝わり方を理解する。 ・初期微動継続時間と距離との関係がわかる。 ・地震波から推測された内部構造を知る。 ・断層のずれ方と力の向きとの関係がわかる。 ・プレート境界と地震分布の関係がわかる。 ・震災の被害例を知り、防災意識を高める。 	

<探究理科> (週 1 時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 論理的思考の推論パターン① ①変数について ②分類について ③比例と反比例について 2. 探究活動①	<ul style="list-style-type: none"> 身近な現象を考える上で、変わっていくものが何かを考えることができる。 いろいろなものの集団をグループ分けすることができる 2つの量の関係性について、比例の関係と反比例の関係に気づくことができる。 探究活動を通じて、比較したり、関連付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いることができる。 事象の中から何らかの関連性や規則性、因果関係などを見いだして考えることができる。 	【評価の観点】 <ul style="list-style-type: none"> 自然科学に対する知識、観察や実験に対する技能 自然現象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 主体的に自然現象と関わり、科学的に探究しようとする態度 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> 実験レポート 成果発表
2 学期	3. 論理的思考の推論パターン② ①蓋然性について ②相関性について ③複合的な変数について 4. 探究活動②	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中での不確定な事象について、確率を用いて考察することができる。 2つの量的な関係について、グラフなどを用いて説明することができる。 いくつかの変数について、複合的な関係性について考えることができる。 <ul style="list-style-type: none"> 自然を敬い、科学することの有用性に気づき、科学的根拠に基づき判断することができる。 	
3 学期	5. 論理的思考の推論パターン③ ①形式的モデルについて ②平衡について 6. 探究活動③	<ul style="list-style-type: none"> 抽象的な事象について、モデルを用いて考えることができる。 2つの量の状態間における平衡状態について考えることができる。 <ul style="list-style-type: none"> 観察・実験を中心とした探究の過程を通じて課題を解決したり、新たな課題を発見したりすることができる 	

第3学年 理科 (週4時間)	教科書	「未来へ広がるサイエンス3」(啓林館)
	副教材	最新理科便覧 大阪府版 (浜島書店)

学習到達目標

1. 実験データから原子・分子のレベルで化学の基本法則を導きだす力を養う。
2. 電子、原子、イオンの関係を理解し、科学的な概念を身に付ける。
3. 力や運動のようすから、物体にはたらく力を見つめることができる。

4. エネルギーという概念に気づき、仕事との関係について理解を深める。
5. 動物の観察、実験を通して、肺、心臓などの重要な臓器、感覚器や筋肉について学び、消化、神経系、体液循環など動物の体の仕組みと働きについて理解を深めます。
6. 身近な生物についての観察、実験を通して、生物の成長と殖え方、遺伝現象について理解するとともに、発生の仕組みについて認識を深めます。
7. 自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解するとともに、自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う。

学習方法

教科書・授業プリントに沿った講義を中心とし、観察・実験を授業の中で多く取り扱うことで、基礎的・基本的な学習内容について理解を深める。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<理科①> (週2時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 電気分解とイオン ①電解質と非電解質 【実験】水溶液の電気伝導性 ②イオン ③水溶液の電気分解1 【実験】水の電気分解 ④水溶液の電気分解2 【実験】塩化銅水溶液の電気分解 2. 酸性・アルカリ性と中和 ①酸水溶液の性質 ②アルカリ水溶液の性質 【実験】酸性とアルカリ性の性質を調べる。 ③中和反応 【実験】塩酸と水酸化ナトリウム水溶液の中和反応実験 3. 3種類の物質 ①貴ガス ②共有結合 ③イオン結合 ④金属結合	<ul style="list-style-type: none"> ・電気が流れる水溶液と流れない水溶液を分類できる。 ・電子、原子、イオンの関係がわかる。 ・水溶液の電気分解実験を適切な手順・方法で行える。 ・電気分解現象を電子、原子、イオンの関係で説明できる。 ・酸水溶液、アルカリ水溶液のそれぞれの性質がわかる。 ・酸性・アルカリ性の原因のイオンがわかる。 ・中和反応実験を適切な手順・方法で行える。 ・中和反応をイオンのレベルでわかる。 ・構成原子の特徴から物質を3種類に分類できる。 ・3種類の結合を原子モデルで説明できる。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学に対する知識、観察や実験に対する技能 ・自然現象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 ・主体的に自然現象と関わり、科学的に探究しようとする態度 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験レポート ・ノート提出 ・定期考査
2	4. 力と運動 (1)	・物体に力がはたらくと、その力は必ず	

<p>学期</p>	<p>①力と加速 ②運動のようすの記録 【実験】記録タイマーを用いた運動の解析 ③速さと距離と時間</p> <p>5. 力と運動 (2) ①水圧と浮力 ②力の合成・分解 ③慣性の法則 ④運動の相対性 ⑤質量と重力 ⑥摩擦力</p>	<p>加速を生むことがわかる。また、加速運動のあらわし方がわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録タイマーの使い方と、その記録の読み方がわかる。 ・(加速運動も含めて) 時間・速さ・距離の関係を理解し、これを用いてさまざまな計算ができる。 ・水中で物体にはたらく力について、説明できる。 ・ものの浮き沈みを「浮力」によって説明できる。また、生じる浮力の大きさと物体の密度の関係がわかる。 ・2力以上の力の合成と分解を作図することができる。 ・物体に力がはたらかなければ、その運動を持続しようとする性質(慣性)が、ものの本性であることを理解する。 ・物体の加速をにぶくする質量(慣性質量)の存在に気づき、質量と重力のちがいがわかる。 ・摩擦力がはたらく場合について、起こる運動をだいたい予測することができる。
<p>3 学期</p>	<p>6. 仕事とエネルギー ①仕事の原理 ②運動エネルギーと位置エネルギー ③エネルギー保存則 ④自然界で形を換えるエネルギー ⑤放射線の性質</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような方法を用いても、物体を動かすのに必要な仕事の量は変わらないことがわかる。 ・「エネルギー」という概念の必要性に気づき、仕事との関係を理解する。 ・エネルギー保存にもとづけば、力学現象についてはだいたいのことが予測できることがわかる。 ・エネルギーは、いろいろに形を換えて自然界をめぐっていることを理解する。 ・放射線と放射能、放射性物質について違いを説明することができる。 ・放射線検出器や霧箱を用いて、放射線の観測を行う。

<理科②> (週2時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
<p>1 学期</p>	<p>1. 動物の体の仕組み ①消化と吸収 ②肺呼吸と循環系 ③腎臓の構造と働き 【実習】腎臓プレパラートの観察 ④感覚器と神経系 ⑤運動器</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内臓諸器官の働きと位置 ・実習を通しての理解を深める ・脊椎動物についてより深く学習する ・卵生と胎生 ・えら呼吸と肺呼吸 ・変温動物と恒温動物 ・鱗・羽毛・体毛 ・心臓の発達 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学に対する知識、観察や実験に対する技能 ・自然現象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力

	<p>【観察・実験】筋肉の観察と収縮実験 ⑥脊椎動物の分類</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大後頭孔の位置と頭蓋の発達 ・目の位置と視野の大きさ・遠近感 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に自然現象と関わり、科学的に探究しようとする態度
2 学 期	<p>2. 動物の細胞と繁殖 ①体を作る細胞 ②体細胞分裂 【観察】ネギの根端 ③減数分裂 【観察】プレパラート ④受精と発生 【観察】ウニの発生標本 ⑤受精によらない繁殖</p> <p>3. 遺伝 ①減数分裂と配偶子 ②染色体上にある遺伝子 ③メンデル遺伝 ④連鎖している遺伝子 ～染色体地図から～ ⑤バイオテクノロジー ・遺伝子組み換え技術 ・ES細胞とiPS細胞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・減数分裂の理解 ・ウニの発生 ・身近な生物の殖え方を観察し、有性生殖と無性生殖の特徴を見いだす ・体細胞分裂の過程が植物細胞、動物細胞に共通であり、多細胞生物は細胞の分裂によって成長することを理解できる。 ・体細胞分裂については、染色体が複製されて二つの細胞に等しく分配され、元の細胞と同質の二つの細胞ができることを理解できる。 ・体細胞分裂の観察を行い、その過程を確かめるとともに、細胞の分裂を生物の成長と関連付けてとらえることができる。 ・生物が殖えていくときに親の形質が子に伝わることを理解できる。 ・交配実験の結果などに基づいて、親の形質が子に伝わる時の規則性を見いだすことができる。 ・遺伝子の存在を理解できる。 ・メンデル遺伝の完全な理解 ・バイオテクノロジーが我々の生活に関連していることを学ぶ。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験レポート ・ノート提出 ・定期考査
3 学 期	<p>4. ヒトと自然 ①自然とは ②森林の生態系 生産者・消費者・分解者 ③多様な自然を守ろう ・淀川のイタセンパラ、河原のキジなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けてとらえるとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを理解できる。 ・身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解し、自然環境を保全することの重要性を認識できるようにする。 	

中学校 英語科 シラバス

3年間のねらい 学習目標

「英語を学びたい。英語で学びたい。」という積極的な態度を身につけさせながら、英語コミュニケーション能力の育成及び国際社会において英語を情報発信・受信の道具として活用できる人材の育成を目指す。

第1学年 英語 (週5時間)	教科書	One World English Course ① (教育出版)
	副教材	単語集、音声教材など

学習到達目標

英語に対する興味・関心を引き出し、異なる言語や文化に触れることによって、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を身につける。

1. 自然な英語の発音を身につけ、区別できるようになる。
2. 自分のことや家族の事柄について表現できるようになる。
3. 日常生活における簡単な内容の会話を聞き、理解できるようになる。
4. 簡単な読み物を読み、理解することができるようになる。
5. 簡単なメモや文章を書くことができるようになる。
6. 音声教材などを用いて、日常生活で使う表現をつかえるようになる身につける。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	基本的な英語の音声・語彙・表現・文法などの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーション(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)に生かすことができる技能を身につけている。	身につけた英語の知識や技能を用いて、目的や状況に応じた基本的な対応ができ、話し手や書き手の意図をおおまかに理解できる。また、それに対しての自分の考えを簡単に述べるができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法や表現などを積極的に身につけて、自分の考えを簡単な英語で表現しようとする意欲がみられる。 ・話し手や書き手の意図をしっかりと理解しようとする姿勢がみられる。

学習方法

1. 授業を大切にす。授業中に積極的に英語を使うように心掛ける。
2. 宿題や与えられた課題にしっかり取り組む。
3. ワークブックなどの家庭学習にも励み、積極的に復習する姿勢を身につける。
4. 小テスト等の学習を行い、語彙や文法事項の定着を図る。
5. 自然な英語に慣れるために、音声教材を積極的に活用する。
6. ネイティブスピーカーによる授業では、習った文法事項を積極的に活用し、会話やスピーチ、プレゼンテーションを行う。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週5時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	<ol style="list-style-type: none"> 1. アルファベット 2. ローマ字 3. 人称代名詞 4. be 動詞 5. 複数形 6. 一般動詞 7. 疑問詞を使った疑問 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを読んだり、書いたりできる。 ・人やものの紹介をしたり、質問をしたりすることができる。 ・複数あるものを指し示して説明することができる。 ・現在の動作・状態について説明・質問でき 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の知識・技能 ・英語を用いての思考・判断・表現 ・主体的に学習に取り組む態度

	文①	<ul style="list-style-type: none"> る。 ・場所や時ついでの情報交換することができる。 ・数や量について説明したり、質問したりできる。 	【評価方法】 1. 定期考査の成績 2. 学習態度の平常点 (春休みの補講はなし)
2学期	1. be 動詞の過去形 2. 一般動詞の過去形 3. 現在進行形 4. 疑問詞を使った疑問文②	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の動作・状態について説明・質問できる。 ・「どちら」が好きなのかをたずねることができる。 ・だれがするのかをたずねることができる。 ・どのくらいの頻度で行うのか説明できる。 ・理由をたずねる質問と応答ができる。 ・だれのものか情報を交換することができる。 ・今していることを説明し、情報を交換することができる。 	
3学期	1. 助動詞 2. 未来表現 3. 第3文型 (SVC) 4. there 構文	<ul style="list-style-type: none"> ・「できること」「できないこと」について説明したり質問したりできる。 ・許可を求めることができる。 ・すべきことやしてはいけないことを説明できる。 ・しなければならないこと、する必要がないことを説明できる。 ・未来のことについて説明し、質問したり答えたりすることができる。 ・人や物の様子を伝えることができる。 ・ものがある場所、人がいる場所について述べ、たずねたり答えたりすることができる。 	

第2学年 英語 (週5時間)	教科書	One World English Course ② (教育出版)
	副教材	単語集、音声教材など

学習到達目標

英語に対する興味・関心を高めながら、言語や文化に対する理解を深め、習った文法項目を使ってコミュニケーションを実践する力を身につける。

1. 自然な英語の発音で、会話ができるようになる。
2. 自分の考えや意見を表現することができるようになる。
3. 学校生活や地域での実生活において、実用的な英語で表現できるようになる。
4. 簡単な文章や、掲示・指示を理解することができるようになる。
5. 身の周りの出来事を英語で書くことができるようになる。
6. 各自の英語力に応じた検定(英検など)を取得する。
7. 音声教材などを用いて、日常生活で使う表現を使えるようになる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
--	-------	----------	--------------

評価規準	基本的な英語の音声・語彙・表現・文法などの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーション（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）に生かすことができる技能を身につけている。	身につけた英語の知識や技能を用いて、目的や状況に応じた基本的な対応ができ、話し手や書き手の意図をおおまかに理解できる。また、それに対しての自分の考えを簡単に述べることができる。	・基本的な文法や表現などを積極的に身につけて、自分の考えを簡単な英語で表現しようとする意欲がみられる。 ・話し手や書き手の意図をしっかりと理解しようとする姿勢がみられる。
------	--	--	--

学習方法

1. 授業を大切にする。授業中に積極的に英語を使うように心掛ける。
2. 宿題や与えられた課題にしっかり取り組む。
3. ワークブックなどの家庭学習にも励み、積極的に復習する姿勢を身につける。
4. 小テスト等の学習を行い、語彙や文法事項の定着を図る。
5. 自然な英語に慣れるために、音声教材を積極的に活用する。
6. ICT教材を取り入れ、積極的に発話する機会を設ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週5時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 第4文型(SV00) 2. that 節 3. 過去進行形 4. 接続詞 5. 不定詞	<ul style="list-style-type: none"> ・「人にもものをあげる」などの文を理解して使うことができる。 ・自分の考えを説明することができる。 ・過去にしていたことを伝える文を理解して使うことができる。 ・いつするのか「したのか」を説明することができる。 ・仮定の話をするすることができる。 ・理由を説明することができる。 ・好きなこと、楽しいことを説明したり質問したりできる。 ・自分がしたいことを説明することができる。 ・理由・目的を説明することができる。 ・何をするための時間や機会であるかを説明することができる。 ・人やものについて情報を加えて説明することができる。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の知識・技能 ・英語を用いての思考・判断・表現 ・主体的に学習に取り組む態度 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期考査の成績 2. 学習態度の平常点（提出物、小テスト、復習テストの成績など）
2学期	1. 動名詞 2. 疑問詞＋不定詞 3. 形式主語の文 4. 比較表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「～すること」などを表す文を理解して使うことができる。 ・「何をすべきか」「どこへいくべきか」などを表す文を理解して使うことができる。 ・複数のもや人を比較することができる。 ・人やものを比較して意見を言ったり、説明したりできる。 ・人やものを比較して質問できる。 ・比較した中でいちばんのものを説明することができる。 	

3 学期	1. 受動態 2. 関節疑問文 3. 感嘆文 4. 第5文型(SVOC)	<ul style="list-style-type: none"> ・されたり、してもらったりするものごとについて、説明することができる。 ・ものごとを行った人についての情報を含めて、説明することができる。 ・疑問文が別の文の中に含まれた文や、感嘆文を理解して使うことができる。 ・英文の構造について理解する。 	
---------	---	--	--

第3学年	教科書	One World English Course ③ (教育出版)
英語 (週5時間)	副教材	単語集、音声教材など

学習到達目標

英語に対する興味・関心を高めながら、言語や文化に対する理解を深め、習った文法項目を使ってコミュニケーションを実践する力を身につける。

1. 自然な英語の発音で、会話ができるようになる。
2. 自分の考えや意見を表現することができるようになる。
3. 学校生活や地域での実生活において、実用的な英語で表現できるようになる。
4. 簡単な文章や、掲示・指示を理解することができるようになる。
5. 身の周りの出来事を英語で書くことができるようになる。
6. 各自の英語力に応じた検定(英検など)を取得する。
7. 音声教材などを用いて、日常生活で使う表現を使えるようになる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	基本的な英語の音声・語彙・表現・文法などの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーション(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)に生かすことができる技能を身につけている。	身につけた英語の知識や技能を用いて、目的や状況に応じた基本的な対応ができ、話し手や書き手の意図をおおまかに理解できる。また、それに対しての自分の考えを簡単に述べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法や表現などを積極的に身につけて、自分の考えを簡単な英語で表現しようとする意欲がみられる。 ・話し手や書き手の意図をしっかりと理解しようとする姿勢がみられる。

学習方法

1. 授業を大切にする。授業中に積極的に英語を使うように心掛ける。
2. 宿題や与えられた課題にしっかり取り組む。
3. ワークブックなどの家庭学習にも励み、積極的に復習する姿勢を身につける。
4. 小テスト等の学習を行い、語彙や文法事項の定着を図る。
5. 自然な英語に慣れるために、音声教材を積極的に活用する。
6. ICT教材を取り入れ、積極的に発話する機会を設ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週5時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 現在完了形・現在完了進行形 2. 後置修飾(分詞句)	<ul style="list-style-type: none"> ・過去から現在まで続いていることを説明することができる。 ・継続している期間をたずねることができる。 ・経験したことを説明することができる。 ・現在までに完了したことを説明すること 	【評価の観点】 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の知識・技能 ・英語を用いての思考・判断・表現 ・主体的に学習に取り組む態度

		<p>ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人やものについて詳しく説明することができる。 	<p>【評価方法】</p> <p>1. 定期考査の成績</p> <p>2. 学習態度の平常点 (提出物、小テスト、復習テストの成績など)</p>
2 学期	<p>3. 関係代名詞</p> <p>4. 仮定法過去</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人やものについて詳しく説明することができる。 ・現在の事実に反する仮定や、願望を表すことができる。 	
3 学期	<p>5. 中学校で習った英文法の総復習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに習った英文法を適切に使って、様々な表現の文を作ることができる。 	

中学校 音楽科 シラバス

3年間のねらい 学習目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

[中学校学習指導要領（平成30年告示）より]

第1学年 音楽 (週2時間)	教科書	中学生の音楽1、中学生の器楽（教育芸術社 702 752）
	教材	アルトリコーダー、五線ノート、ICT機器、他

※アルトリコーダーは新型コロナウイルス感染状況等により使用出来ない場合があります。

学習到達目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的、協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

学習方法

歌唱においては、斉唱・混声2部合唱、器楽ではアルトリコーダーを使用して2～3重奏を行う。鑑賞では、CD・DVD・ICT機器、楽器実演奏、を用いる。1年間を通して音楽の幅広い知識を養い、音楽的な知覚と感受性を主体的、対話的に学習する。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	各項目の内容において、楽曲の背景や知識を理解した上で、音楽的な知覚や感受をもとにした基本的な歌唱法や奏法を身につけているか等を評価の基準とする。	各項目の内容において、曲想や音楽の構造などを理解した上で、それに必要な判断を交えた工夫を生かした音楽表現ができていないかを評価の基準とする。	各項目の内容において、集団行動への参加、その中で自己の表現が主体的、対話的にできているか等を評価の基準とする。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間> ※新型コロナウイルス感染状況等により内容に大幅な変更をする場合があります。

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点
1 学期	1. 歌唱 「We'll Find The Way」 「その先へ」 「主人は冷たい土の中に」 (フォスター) 「エーデルワイス」 「浜辺の歌」(成田為三)	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声と正しい姿勢で堂々と歌い、美しい響きを作ることを身につける。 ・近代アメリカ音楽とフォスターについて学習する。 ・リコーダーと歌のアンサンブルを楽しむ。 ・映画の中の音楽の位置づけを理解する。 ・ハ長調の階名に慣れる。 ・曲に合わせた発声や、言葉を理解して歌う。 ・詩の内容を大切に歌唱する。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽への関心、意欲、態度 ・音楽的な知覚と感受 ・表現の技能と工夫 ・鑑賞の能力 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末考査 <p>楽曲の生まれた背景や</p>

	<p>2. 器楽 基礎的な知識と初歩的な演奏法 「喜びの歌」「さんぽ道」「かっこう」「そっとやさしく」「カノン12」「オーラリー」等</p> <p>3. 鑑賞 「The Sound of Music」「魔王」(シューベルト)</p> <p>4. 楽典 「音楽の約束」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なリコーダーの歴史や知識、構造や種類を理解する。 初歩的な演奏方法を習得し、正しい姿勢で演奏をする。 タンギングに気をつけて演奏する。 親しみやすく易しいメロディーを、一緒に演奏する。 2つのパートに分かれて演奏し、ハーモニーを感じ取る。 ミュージカル映画の鑑賞を楽しむ。 シューベルト、ゲーテについて学習する。 詩の内容を理解しながら鑑賞する。 曲の表情や速さ、強弱などを表す記号、標語について学び、より深く曲を理解するための手立てとする。 	<p>詩の内容、作詞・作曲家、器楽、楽典についての知識・理解を問う問題を出題する。</p> <p>2. 実技テスト 大きな声で堂々と歌えているか、基本的な奏法を身につけているか等を評価する。</p> <p>3. ノート プリント教材の整理、学習ノートが作成できているか等を評価する。</p> <p>4. 授業の取り組み 集団行動に参加し、自己の表現が主体的、対話的にできているか等を評価する。</p>
2 学 期	<p>1. 歌唱 「赤とんぼ」(山田耕筰) 「朝の風に」 「君をのせて」 「Let's Search For Tomorrow」</p> <p>2. 器楽 「アニーローリー」「虹の彼方に」「カノン3」「きらきら星」「威風堂々」「木かげの思い出」「ふるさと」「春」</p> <p>3. 鑑賞 「春」(ヴィヴァルディ) 雅楽「平調 越天楽」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 三木露風、山田耕筰について学習する。 詩の内容や、言葉と旋律の関係を考えながら歌唱する。 混声二部合唱を通して、ハーモニーを工夫する。 音名と階名、ト音へ音譜表を学習する。 変声期について学習し、無理のない声での歌唱を試みる。 単旋律の演奏や2重奏を通して、アーティキュレーションを工夫して演奏する。 サミングを行い、より滑らかな運指を目指す。 ヴィヴァルディについて学習する。 イタリアの風土と音楽を学習する。 使用楽器の特徴や曲構成を理解し、鑑賞する。 	
3 学 期	<p>1. 歌唱 「Forever」「あすという日が」「COSMOS」等</p> <p>2. 器楽 「星の世界」</p> <p>3. 鑑賞 箏曲「六段の調」 「日本の民謡」 「アジアの諸民族の音楽」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 混声合唱を通して、ハーモニーの美しさを感じ取りながら歌う。 これまで習得してきた技術をもとに、アンサンブルを楽しむ。 尺八や箏、三味線、日本の民謡を通して我が国の伝統音楽を理解する。 尺八や箏、三味線に実際に触れさせる。 アジア諸国の様々な楽器の音色を鑑賞。 	

第2学年 音楽 (週2時間)	教科書	中学生の音楽2・3上、中学生の器楽(教育芸術社 803 752)
	教材	アルトリコーダー、五線ノート、ICT機器、他

※アルトリコーダーは新型コロナウイルス感染状況等により使用出来ない場合があります。

学習到達目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

学習方法

歌唱においては、斉唱・混声2～3部合唱、器楽ではアルトリコーダーを使用して2～3重奏を行う。鑑賞では、CD・DVD・ICT 機器、楽器実演奏、を用いる。1年間を通して音楽の幅広い知識を養い、音楽的な知覚と感受性を主体的、対話的に学習する。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	各項目の内容において、楽曲の背景や社会的及び歴史的知識を理解した上で、音楽的な知覚や感受をもとにした基本的な歌唱法や奏法を身につけているか等を評価の基準とする。	各項目の内容において、曲想や音楽の構造などを深く理解した上で、それに必要な判断を交えた工夫を生かした音楽表現ができているかを評価の基準とする。	各項目の内容において、集団行動での一員として、その中で自己の持つ表現力を主体的、対話的に発揮できているか等を評価の基準とする。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週1時間> ※新型コロナウイルス感染状況等により内容に大幅な変更をする場合があります。

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点
1学期	1. 歌唱 「夢の世界を」 「翼をください」 「夏の思い出」(中田喜直) 「夏の日の贈りもの」 2. 器楽 「ラヴァースコンチェルト」 「海に見える街」等 3. 鑑賞 「フーガ ト短調」 (J.S.バッハ) 4. 楽典 「音楽の約束」	<ul style="list-style-type: none"> ・2部合唱を通して、ハーモニーの美しさを感じ取りながら歌う。 ・美しい声で、正しい姿勢で堂々と歌い、美しい響きを作ることを身につける。 ・中田喜直の生涯や作風を理解する。 ・詩の内容や言葉と旋律を理解して歌唱。 ・アーティキュレーションや、様々な運指に気をつけて演奏する。 ・バッハやバロック時代について学習する。 ・宗教音楽や多声音楽を鑑賞する。 ・パイプオルガンの構造について学習する。 ・単純拍子と複合拍子、1～3部形式を理解する。 	【評価の観点】 ・音楽への関心、意欲、態度 ・音楽的な感受や表現の工夫 ・表現の技能 ・鑑賞の能力 【評価方法】 1. 期末考査 楽曲の生まれた背景や詩の内容、作詞・作曲家、器楽、楽典についての知識・理解を問う問題を出題する。 2. 実技テスト 曲種に応じた発声や美しい言葉の表現を生かして、曲にふさわしい歌唱表現を身につけているか、曲にふさわしい音色や奏法を身につけているか等を評価する。
2学期	1. 歌唱 「荒城の月」(滝廉太郎) 「サンタルチア」 「Joyful Joyful」 「メッセージ」 2. 器楽 「Edelweiss」	<ul style="list-style-type: none"> ・土井晩翠、滝廉太郎について学習する。 ・イタリア風土、カンツォーネについて学ぶ。 ・イタリア語の歌唱を試み、のびのびと大きな声で歌う。 ・詩の内容を理解しながら歌う。 ・諸外国の民謡の理解。 ・アーティキュレーションや、高度な運指に気をつけて演奏する。 	3. ノート プリント教材の整理、学習ノートが作成できているか等を評価する。

	「美女と野獣」等 3. 鑑賞 「交響曲第5番ハ短調」 (ベートーヴェン) 4. 楽典 調性(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・表現を工夫して旋律を作る。 ・ベートーヴェン、古典派時代について学習する。 ・ソナタ形式を理解する。 ・オーケストラの編成や、使用楽器について学習する。 ・長調、調性の持つ意味について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> る。 4. 授業の取り組み 集団行動に参加し、自己の表現が主体的、対話的にできているか等を評価する。
3 学 期	1. 歌唱 「やさしさに包まれたなら」「夏は来ぬ」「大切なもの」等 2. 器楽 「千の風になって」等 プリント教材 等 3. 鑑賞 「アイダ」(ヴェルディ) 歌舞伎・長唄「勸進帳」 「郷土の祭りや芸能」 「世界の諸民族の音楽」等 4. 楽典 調性(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・混声合唱を通して、ハーモニーの美しさを感じ取りながら歌う。 ・曲にふさわしい表現を工夫する。 ・これまで習得してきた技術をもとに、アンサンブルを楽しむ。 ・演劇、歌、舞台が一体となった作品を鑑賞する。 ・文楽、歌舞伎、民謡を通して我が国の伝統音楽を理解する。 ・世界各地の様々な楽器や音楽に触れさせる。 ・短調、調性の持つ意味について学習する。 ・移調の必要性について理解する。 ・日本の様々な音階について学習をする。 	

第3学年 音楽 (週2時間)	教科書	中学生の音楽2・3下、中学生の器楽 (教育芸術社 804 752)
	教材	アルトリコーダー、五線ノート、ICT機器、他

※アルトリコーダーは新型コロナウイルス感染状況等により使用出来ない場合があります。

学習到達目標 第2学年に同じ。

学習方法 第2学年に同じ。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	各項目の内容において、楽曲の背景や社会的及び歴史的な知識を十分理解した上で、音楽的な知覚や感受をもとにした応用的な歌唱法や奏法を身につけているか等を評価の基準とする。	各項目の内容において、曲想や音楽の構造などを深く理解した上で、それに必要な適切な判断力を交え、工夫を生かした音楽表現ができているか等の評価の基準とする。	各項目の内容において、集団行動の取り組み、その中でさらなる工夫をこらした自己の表現を主体的、対話的に実現できているか等を評価の基準とする。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週1時間>

※新型コロナウイルス感染状況等により内容に大幅な変更をする場合があります。

す。

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点
----	---------	--------------	-------

1 学 期	<p>1. 歌唱 「花」(滝廉太郎) 「Amazing Grace」 「きみとともに」 「帰れソレントへ」</p> <p>2. 器楽 「ブルタバ (モルダウ)」 「トリステータ」</p> <p>3. 鑑賞 「ブルタバ (モルダウ)」 (スメタナ) 「ボレロ」(ラヴェル)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・滝廉太郎について学習する。 ・詩の内容や、言葉と旋律の関係を大切に して、2部～3部合唱をする。 ・曲の仕組みを調べて表現を工夫する。 ・息の流れに気をつけて、のびのびと歌う。 ・イタリア風土、カンツォーネについて学 ぶ。 ・イタリア語でのびのび表情豊かに歌唱す る。 ・同主調について理解する。 ・親しみやすい曲を通して、2重奏を楽し む。 ・ソプラノとアルトのアンサンブルを通し て、2～3重奏を楽しむ。 ・スメタナについて学習する。 ・情景を思い浮かべながら鑑賞する。 ・チェコの風土について学習する。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽への関心、意欲、 態度 ・音楽的な感受や表現 の工夫 ・表現の技能 ・鑑賞の能力 <p>【評価方法】</p> <p>1. 期末考査 楽曲の生まれた背景や 詩の内容、作詞・作曲 者、器楽、楽典について などの知識・理解を問 う問題を出題する。</p> <p>2. 実技テスト 曲種に応じた発声や美 しい言葉の表現、曲の 仕組みを生かして、曲 にふさわしい歌唱表現 を身につけているか、 曲にふさわしい音色や 奏法を感じ取り、それ を生かして表現をする 技能を身につけている か等を評価する。</p> <p>3. ノート プリント教材の整理、 学習ノートが作成でき ているか。</p> <p>4. 授業の取り組み 集団行動に参加し、自 己の表現が主体的、対 話的にできているか等 を評価する。</p>
2 学 期	<p>1. 歌唱 「花の街」(團伊玖磨) 「きみとともに」 「Let It Be」 「花は咲く」</p> <p>2. 器楽 「I Got Rhythm」(ガーシ ュイン) プリント教材 等</p> <p>3. 鑑賞 「ポピュラー音楽」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・團伊玖磨について学習する。 ・詩の内容や、言葉と旋律の関係を大切に して、歌唱する。 ・英語の歌詞で、のびやかに歌う。 ・ポピュラー音楽について理解する。 ・ビートルズとその影響について考える。 ・電子楽器の活用を工夫する。 ・アーティキュレーションや、高度な運指に 気をつけて演奏する。 ・ポピュラー音楽の成り立ち、今日における 役割について学習する。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽への関心、意欲、 態度 ・音楽的な感受や表現 の工夫 ・表現の技能 ・鑑賞の能力 <p>【評価方法】</p> <p>1. 期末考査 楽曲の生まれた背景や 詩の内容、作詞・作曲 者、器楽、楽典について などの知識・理解を問 う問題を出題する。</p> <p>2. 実技テスト 曲種に応じた発声や美 しい言葉の表現、曲の 仕組みを生かして、曲 にふさわしい歌唱表現 を身につけているか、 曲にふさわしい音色や 奏法を感じ取り、それ を生かして表現をする 技能を身につけている か等を評価する。</p> <p>3. ノート プリント教材の整理、 学習ノートが作成でき ているか。</p> <p>4. 授業の取り組み 集団行動に参加し、自 己の表現が主体的、対 話的にできているか等 を評価する。</p>
3 学 期	<p>1. 歌唱 「早春賦」(中田 章) 「忘れることなんかでき ない」「旅立ちの日に」 「大地讃頌」等</p> <p>2. 器楽 プリント教材 等</p> <p>3. 鑑賞 尺八曲「巢鶴鈴慕」 能・謡「敦盛」 「世界の諸民族の音楽」 「耳でたどる音楽史」等</p> <p>ルールを守って音楽を楽 しもう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吉丸一昌、中田章について学習する。 ・詩の内容や、言葉と旋律の関係を大切に して、歌唱する。 ・混声合唱を通して、ハーモニーの美しさを 感じ取りながら歌う。 ・アーティキュレーションや、高度な運指に 気をつけて演奏する。 ・様々な楽器を用いて器楽合奏をする。 ・日本の伝統音楽、伝統芸能に触れる。 ・世界の諸民族の音楽に触れる。 ・西洋と日本の音楽史を学習する。 ・日本の楽器と西洋の楽器の交わりを学 ぶ。 ・国境を越えて影響し合う音楽の大切さを 理解させる。 ・ルールを守って音楽を楽しむ必要性を理 解させる。 ・生涯にわたって生活と共にしていく音楽、 自分にとっての音楽について考える。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽への関心、意欲、 態度 ・音楽的な感受や表現 の工夫 ・表現の技能 ・鑑賞の能力 <p>【評価方法】</p> <p>1. 期末考査 楽曲の生まれた背景や 詩の内容、作詞・作曲 者、器楽、楽典について などの知識・理解を問 う問題を出題する。</p> <p>2. 実技テスト 曲種に応じた発声や美 しい言葉の表現、曲の 仕組みを生かして、曲 にふさわしい歌唱表現 を身につけているか、 曲にふさわしい音色や 奏法を感じ取り、それ を生かして表現をする 技能を身につけている か等を評価する。</p> <p>3. ノート プリント教材の整理、 学習ノートが作成でき ているか。</p> <p>4. 授業の取り組み 集団行動に参加し、自 己の表現が主体的、対 話的にできているか等 を評価する。</p>

中学校 美術科 シラバス

3年間のねらい 学習目標

美術の授業では「表現」と「鑑賞」の二つの領域を経験します。「表現」とは絵画、彫刻、デザイン、工芸などの実技です。「鑑賞」とは様々な芸術作品を見て、感じて、考えたり理解したりして芸術を味わうことで、教科書に載っている作品やビデオ教材や様々な画集を用いた授業を行います。自発的な疑問や感想は積極的に受け付けますので「鑑賞」の授業を通して一般に芸術的と言われている作品を見て自分なりの思いや印象を持てるようになると同時に、他の人の感性や考え方も理解できるよう成長してください。また、「表現」「鑑賞」に関係なく美術を通して何かを感じる力（感受性）、考える力（審美観）を身に付ける事をねらいと目標とします。

第1学年 美術	教科書	美術1（日本文教出版）
	副教材	スケッチブック、画用紙、鉛筆、水彩絵の具、ケント紙、アクリルガッシュ（デザイン用アクリル絵の具）、定規、溝引き棒、烏口、iPad、ビデオ、参考図書、パワーポイント等

学習到達目標

中1では、小学校時代と違ってより自覚的に表現ができるように基礎的なものの見方や描き方又社会との関わりとしてのデザインの基礎を学ぶ。鑑賞においては、ビデオや画集を用いて中1以後の美術への関心を深められるよう学習する。

学習方法

授業での制作、レポート

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	対象（人物・主題・古典絵画）や事象（色彩・構図）を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表現している	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫（構図や色彩）、美術の働き（デザインや肖像画の役割、古典絵画）などについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現（知識の詰め込みではなく得た知識を自分なりに駆使して制作する）及び鑑賞（普遍的な美術知識のみではなく自分なりの感受性を持てるようになる）の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

年間シラバス（1年間の学習予定表）

〈週2時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1,鉛筆デッサン 2,水彩画	1,形と明暗について学ぶ 2,友達を中心とした教室の風景	<ul style="list-style-type: none"> ・美術、課題への興味,関心 ・発想力、表現方法の理解 ・課題に適した独自の表現,技法,色彩,形,道具の使い方 ・作品の完成度、仕事量以上を総合的に提出作品で評価する。
2 学期	平面色彩構成	デザインの基礎的表現の習得	
3 学期	発想画（模写）	名画から学び、美術文化理解を深めるとともに発想力を養う	
随	鑑賞	芸術作品の良さを味わい、今後の美術に	レポート

時		対する興味を身に付ける	独自の視点で美術作品を捉えて、感じた事を自分の言葉で文章表現できているか。
---	--	-------------	---------------------------------------

第2学年 美術	教科書	美術2・3上、美術2・3下（日本文教出版）	
	副教材	ニッパー、接着剤、アクリル下地、アクリルガッシュ、粘土、粘土板、粘土べら、画用紙、鉛筆、iPad、ビデオ、参考図書、パワーポイント等	

学習到達目標

中2では中1で養った見方や表現をもとに更に立体的構成表現へと展開してゆく。また表現素材の多様性にも理解を深める。鑑賞においては作品に込められた意味、内容を感じられることを目指す。

学習方法

授業での制作、レポート

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	対象（自動車模型や自身の手）や事象（立体感について）を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表現している	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫（色彩の工夫や立体感の把握）、美術の働き（工業デザイン製品や立体オブジェ）などについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現（知識の詰め込みではなく得た知識を自分なりに駆使して制作する）及び鑑賞（普遍的な美術知識のみではなく自分なりの感受性を持つようになる）の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

年間シラバス（1年間の学習予定表）

〈週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	立体構成	自動車模型を用いた立体構成 ・立体模型の加工、外装デザイン、塗装等の作業を通して立体的な概念を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・美術、課題への興味、関心 ・発想力、表現方法の理解 ・課題に適した独自の表現、技法、色彩、形、道具の使い方 ・作品の完成度、仕事量 以上を総合的に提出作品で評価する。
2学期	彫刻(彫塑)	彫刻表現 ・モチーフのデッサンを何通りも行い、平面から立体彫刻へと展開する	
3学期	絵画	独創の世界の展開 ・構画画制作	
随時	鑑賞	作品鑑賞 ・芸術作品の良さを味わい、自分なりの印象を持てる審美観を身に付ける	レポート 独自の視点で美術作品を捉えて、感じた事を自分の言葉で文章表現できているか。

第3学年	教科書	美術2・3上、美術2・3下（日本文教出版）	
------	-----	-----------------------	--

美術	副教材	ケント紙、アクリルガッシュ(デザイン用アクリル絵の具)、水彩絵の具、溝引き棒、烏口、画用紙、アクリル下地、クレパス、エアブラシ、絵画用ナイフ、鏡、クレヨン、iPad、ビデオ、参考図書、パワーポイント等
----	-----	--

学習到達目標

中3では第1期二年間の経験をもとに一人の人間としての自己をより深く見つめて表現することを、自らの表現や芸術家の作品鑑賞や表現方法(たとえば抽象的表現など)に接することによって学ぶ。

学習方法

授業での制作、レポート

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	対象(主題)や事象(色彩の性質)を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表現している	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫(色彩の工夫)、美術の働き(平面デザインや近代絵画)などについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする。	美術の創造活動の喜びを味わい

年間シラバス (1年間の学習予定表)

〈週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	平面色彩構成	遠近法を取り入れた構成	<ul style="list-style-type: none"> ・美術、課題への興味、関心 ・発想力、表現方法の理解 ・課題に適した独自の表現、技法、色彩、形、道具の使い方 ・作品の完成度、仕事量以上を総合的に提出作品で評価する。
2学期	絵画(抽象画)	抽象画制作と美術史から学ぶ(制作と鑑賞) ・絵画における抽象的概念の成立と技法を理解し、抽象画を制作	
3学期	絵画(自画像)	自画像制作 ・義務教育における美術の最後に自分を「再現」ではなく「表現」として捉えた自画像を描く	
随時	鑑賞	作品鑑賞 ・作者の生き方や制作の背景までを踏まえて芸術作品を鑑賞する	レポート 独自の視点で美術作品を捉えて、感じた事を自分の言葉で文章表現できているか。

中学校 保健体育科 シラバス

3年間のねらい 学習目標

体育分野では6年間一貫教育を最大限に活用し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することができるようにすることが目標である。そのために、中学1年、2年において基本技能を学び、安全で公平・公正に体育を実施していく基礎作りを行う。また、中学3年生では過去に学んだ基本技能を基に、応用技能を身につけ、さらに高度な身体活動や種目に取り組む。高校3年間では、中学生で学んだ技能をさらに発展させて、ゲーム形式の授業等、より高度な授業を行うものとする。さらに6年間を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組んでいくことを目指す。

保健分野では、健康や安全に関わることに関心を持ち、広く知識を身につけ、自己の生活に生かしていく授業を目指す。

保健体育として他教科と横断的に関わり合い、運動やスポーツとの多様な考え方を養い、体力や技能の程度に関わらず、運動やスポーツの楽しみ方を身に付けていくことができるようにする。

第1・2・3学年 保健体育 (週3+3+4時間)	教科書	新中学保健体育 (学研)
	副教材	新中学保健体育の学習①・②・③

学習到達目標

- 1、身体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動の意義と行い方、身体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。
- 2、技ができる楽しさや喜びを味わい、運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができるようにする。
- 3、心身の健全な育成をはかり、身体活動の爽快さ、スポーツの楽しさを学習するとともに、ルールを遵守する姿勢や礼儀を学び、習得する。
- 4、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。
- 5、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技術や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
- 6、技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、等を理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができるようにする。
- 7、感じを込めて踊ったり皆で踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や表現の仕方などを理解するとともに、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流をすることができるようにする。
- 8、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解することができるようにする。
- 9、健康・安全についての知識を正しく理解し、生涯を通じてより良い行動ができるようにする。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や、生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けてい	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主

る。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	的に取り組もうとしている。
--	--	---------------

学習方法

- ・体育 第1・第2グラウンド、400mトラック、多目的グラウンド、野球場、第1・第2体育館、プール、ダンス場、卓球場、レスリング場、柔道場、剣道場など、充実した体育施設を活用し、多種多様なスポーツ実技を行い、学習到達目標を達成する。
- ・保健 教科書と副教材を中心に授業を行い、実用的な知識を習得する。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

〈保健分野〉

中学1年生 <週1時間> ※体育理論については保健授業の進行状況によって変更する場合がある。

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	【健康な生活と病気の予防】 1. 健康の成り立ち 2. 運動と健康 3. 食生活と健康 4. 休養・睡眠と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・病気や健康にはどんなことが関わっているか理解する。 ・運動の効果と、健康づくりのための運動の行い方を理解する。 ・健康のためには、休養・睡眠食生活でどんなことに気をつける必要があるか理解する。 ・健康のためには、休養・睡眠をどのようにとればよいか理解する。 	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】 1. 期末考査 2. 保健ノート等の提出物 3. 観察及び記録
2 学期	【心身の発達と心の健康】 1. 体の発育・発達 2. 呼吸・循環器の発達 3. 生殖機能の成熟 4. 性とどう向き合うか 5. 心の発達① 6. 心の発達②	<ul style="list-style-type: none"> ・体の各器官はどのように発育・発達するのか理解する。 ・呼吸器や循環器はどのように発達するのか理解する。 ・思春期の体の変化や月経、射精、妊娠は、どんな仕組みで起こるか理解する。 ・思春期における性意識の変化と、性に関する適切な態度や行動の選択について理解する。 ・心と脳の関係と、知的機能・情意機能発達の仕方について理解する。 ・社会性の発達の仕方について理解する。 	
3 学期	7. 自己形成 8. 欲求不満やストレスへの対処 【スポーツの多様性】 1. スポーツの始まりと発展 2. スポーツへの多様な関わり方	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を見つめることにはどんな意味があり、どのように自己形成がなされるかを理解する。 ・心と体にはどんな関わりがあるか、また、欲求不満やストレスにはどのように対処すればよいか理解する。 <p>※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。</p>	

	3. スポーツの多様な楽しみ方 スポーツのルール等		
--	------------------------------	--	--

中学2年生 <週1時間> ※体育理論については保健授業の進行状況によって変更する場合がある。

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	【健康な生活と病気の予防】 1. 生活習慣病とその予防-1 生活習慣病とその予防-2 2. がんとその予防 3. 喫煙と健康 4. 飲酒と健康 5. 薬物乱用と健康 6. 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の予防の観点から、自分の生活を振り返る。 ・喫煙は喫煙者の周りの人にどんな影響を及ぼすのか理解する。 ・飲酒は健康にどんな影響を及ぼすのか理解する。 ・薬物の心身への害と社会への悪影響について理解する。 ・薬物乱用をはじめるきっかけと防止対策について理解する。 	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】 1. 期末考査 2. 保健ノート等の提出物 3. 観察及び記録
2 学期	【傷害の防止】 1. 傷害の原因と防止 2. 交通事故の現状と原因 3. 交通事故の防止 4. 犯罪被害の防止 5. 自然災害に備えて 6. 応急手当の意義と基本	<ul style="list-style-type: none"> ・傷害は、どんなことで起こり、どうすれば防止できるのか理解する。 ・中学生の交通事故の特徴と交通事故の原因について理解する。 ・交通事故を防止するためには、どんな対策をとればよいのか理解する。 ・犯罪被害を防止するためにはどうすればよいかを理解する。 ・地震や台風、大雨などによる被害を防ぐにはどうすればよいか理解する。 ・応急手当が必要なのはなぜか、どんな手当が基本なのか理解する。 ・応急手当の一般的な流れを通報の練習を通して理解する。 	
3 学期	3. スポーツの学び方 【スポーツの効果と安全】 1. スポーツが体と心に及ぼす効果 2. スポーツの学び方 3. スポーツの安全な行い方 スポーツのルール等	※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。	

中学3年生 <週1時間> ※体育理論については保健授業の進行状況によって変更する場合がある。

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学 期	【健康な生活と病気の予防】 1. 感染症とその予防-1 感染症とその予防-2 2. 性感染症とその予防 /エイズ1、2 3. 健康を守る社会の取り組み 4. 医療機関の利用と医薬品の使用	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症はどのように起こり、どうすれば予防できるのか理解する。 ・学級閉鎖などを例にして、感染症予防の対策の意味を考える。 ・性感染症はどんな病気であり、どうすれば予防できるのか理解する。 ・性感染症の予防について、感染症や関係者の立場に立って考える。 ・保健機関、医療機関のそれぞれの役割と利用の仕方を理解しよう。 ・医薬品の作用と正しい使い方について理解する。 ・人々の健康を守るために、地域ではどんな活動が行われているか理解する。 	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】 1. 期末考査 2. 保健ノート等の提出物 3. 観察及び記録
2 学 期	【健康と環境】 1. 環境の変化と適応能力 2. 活動に適した環境 3. 室内の空気の条件 4. 水の役割と飲料水の確保 5. 生活排水の処理 6. ごみの処理 7. 環境の汚染と保全	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化に対して、体はどのように対応するかを理解する。 ・活動に適した温度、湿度、明るさなどの環境の範囲について理解する。 ・二酸化炭素や一酸化炭素の体への影響と、それらの管理の方法を理解する。 ・水はどんな役割を果たしているか、また飲料水はどのように確保されているのか理解する。 ・生活排水はどのように処理されているか理解する。 ・ごみはどのように処理されているのか理解する。 ・環境汚染は健康にどんな影響を及ぼすのか理解する。 	
3 学 期	【文化としてのスポーツ】 1. スポーツの文化的意義 2. 国際的なスポーツ大会とその役割 3. 人々を結び付けるスポーツ スポーツのルール等	※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。	

年間シラバス (1年間の学習予定表)

〈体育実技〉 ※下記のシラバスは、男子・女子ともに天候や施設環境により変更となる場合がある。

中学1年生(男子) <週2時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
--------	---------	--------------	-----------

1 学 期	集団行動 ダンス 球技 水泳 体づくり運動	①運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 ②運動・体力向上の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 ③運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ④運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、参画することができるようにする。 ⑤一人ひとりの違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。 【評価方法】 1. 実技テスト ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 2. 観察及び記録 3. レポート等
2 学 期	球技 器械運動 持久走 体づくり運動		
3 学 期	球技 体づくり運動		

中学1年生（女子）

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	集団行動 武道 器械運動 球技 体づくり運動	①運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 ②運動・体力向上の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 ③運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ④運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、参画することができるようにする。 ⑤一人ひとりの違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。 【評価方法】 1. 実技テスト ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 2. 観察及び記録 3. レポート等
2 学 期	水泳 球技 持久走 体づくり運動		
3 学 期	球技 体づくり運動		

中学2年生（男子） <週2時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
--------	---------	--------------	-----------

1 学期	体力測定 陸上競技 球技 水泳 体づくり運動	①運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 ②運動・体力向上の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 ③運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ④運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、参画することができるようにする。 ⑤一人ひとりの違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。 【評価方法】 1. 実技テスト ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 2. 観察及び記録 3. レポート等
2 学期	球技 武道 持久走 体づくり運動		
3 学期	球技 体づくり運動		

中学2年生（女子）

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	体力測定 陸上競技 球技 体づくり運動	①運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 ②運動・体力向上の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 ③運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ④運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、参画することができるようにする。 ⑤一人ひとりの違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。 【評価方法】 1. 実技テスト ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 2. 観察及び記録 3. レポート等
2 学期	水泳 球技 ダンス 持久走 体づくり運動		
3 学期	球技 体づくり運動		

中学3年生（男子） <週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学期	球技 武道 水泳 体づくり運動	<p>①運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。</p> <p>②運動・体力向上の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>③運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>④運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、参画することができるようにする。</p> <p>⑤一人ひとりの違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。</p>	<p>【評価の観点】</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>2. 思考・判断・表現</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。</p> <p>【評価方法】</p> <p>1. 実技テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 <p>2. 観察及び記録</p> <p>3. レポート等</p>
2 学期	球技 持久走 体づくり運動		
3 学期	球技 体づくり運動		

中学3年生（女子）

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	ダンス 球技 体づくり運動	<p>①運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。</p> <p>②運動・体力向上の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>③運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>④運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、参画することができるようにする。</p> <p>⑤一人ひとりの違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。</p>	<p>【評価の観点】</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>2. 思考・判断・表現</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。</p> <p>【評価方法】</p> <p>1. 実技テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 <p>2. 観察及び記録</p> <p>3. レポート等</p>
2 学期	水泳 球技 持久走 体づくり運動		
3 学期	球技 体づくり運動		

中学校 技術・家庭科（技術分野） シラバス

3年間のねらい、学習目標

技術・家庭科 技術分野では、材料と加工、生物育成、エネルギー変換、情報の4内容を題材として、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等の様々な異なる制約条件（トレードオフ）のもとで実現可能な解を求める（最適化する）ような実践的・体験的な活動や思考を行う。

これらは「①既存の技術の理解」、「②課題の設定」、「③科学的な理解に基づいた設計・計画」、「④課題解決に向けた製作・制作・育成」、「⑤成果の評価」、「⑥次の問題の解決の視点」により構成され、このような学習過程を経ることで技術分野において期待される資質・能力の育成を目指す。技術分野で育成すべき資質・能力は以下の通りである。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

つまり、「単に何かをつくる」ことが目的ではなく、課題解決の過程の一つとして「ものづくり（製作・制作・育成）」を行うという認識を持ち、工夫・創造する力を養う。また、新しい技術が溢れる未来に対して生徒一人ひとりが心躍らせるような姿を期待する。

第1学年	教科書	開隆堂「技術・家庭 技術分野」
技術分野 (週1時間)	副教材	プリント類

学習到達目標

- ・情報及び生物育成の技術に込められた問題解決の工夫を知る。
- ・情報の表現や計算、デジタル化等の基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解する。
- ・生物の育成環境を調節する方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解する。
- ・情報及び生物育成に関わる技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成や機能、情報モラルについての知識を身に付けている。 ・作物、動物及び水産生物の成長、生態についての知識を身に付けている。 	情報及び生物育成の技術に込められた工夫を読み取り、技術の見方・考え方に気付くことができる。	進んで情報及び生物育成の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。

学習方法

プレゼンテーション用ソフトウェアを用いた資料作成を取り入れることで、知識を整理すると共にコンピュータの使用方法を身に着ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<技術分野 週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 生活や社会における技術の役割。 2. 発展する情報の技術と未来。 3. コンピュータの構成や機能を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 技術の発展の経緯や新技術を通して、技術を学ぶ意義を理解する。 情報に関する最新の技術を知る。 新しい技術はプラスの側面とマイナスの側面を持つことを理解する。 コンピュータの構成や機能を知る。 アナログとデジタルについて知る。 計測・制御について知る。 	【評価の観点】 ・知識・技能 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 1. 定期考査 2. 製作・制作物 3. ノート 4. 平常点
2 学期	1. 問題を解決するための未来の職業の在り方を考える。 2. 情報モラルと知的財産について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 身近な職業から問題を発見する。 問題を解決するために、情報を活用した職業の在り方を考える。 プレゼンテーション用ソフトウェアを用いて発表する。 メディアによる情報の表現について知る。 知的財産とそれらを保護する権利について知り、正しい利用方法を理解する。 	
3 学期	1. 生物育成の技術に込められた工夫を知る。 2. 食の在り方について考え、問題解決の提案をする。	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある生物育成の技術を知り、これまでどのような問題を解決してきたかを理解する。 現代の生物育成の問題を認識し、解決する方法を提案する。 	

第2学年	教科書	開隆堂「技術・家庭 技術分野」
技術分野 (週1時間)	副教材	プリント類

学習到達目標

- ・材料と加工の技術に込められた問題解決の工夫を知る。
- ・材料の特徴や性質等の原理・法則と加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解する。
- ・材料と加工に関わる技術の評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規	<ul style="list-style-type: none"> 材料の特性や加工の方法についての知識を身に付けている。 複数の側面から設計を検討 	材料と加工の技術に込められた工夫を読み取り、技術の見方・考え方に気付くことができる。	進んで材料と加工の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。

準	し、製作品の機能と構造を決定している。		
---	---------------------	--	--

学習方法

1年間を通して、「身の回りの空間を有効活用する」というテーマで製品を企画、設計、製作、発表することにより、実社会との関連を意識した学習を展開する。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<技術分野 週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 身の回りにある材料と加工の技術を知る。 2. 材料の特性や加工方法について知る。 3. 製図の方法を知る。	・既製品から問題解決の工夫を読み取り、材料の特徴や性質、丈夫な構造について知る。 ・本製作と同じ木材を用いて導入の実習を行う。	【評価の観点】 ・知識・技能 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 1. 定期考査 2. 製作・制作物 3. ノート 4. 平常点
2 学期	1. 身の回りの空間を有効活用する製品を開発しよう。 2. 適切に製作や検査、点検を行う。	・製作に必要な図を書く。 ・スチレンボード等を使用して実物大の構想の試作を行う。 ・工具や機器を適切に使用して、設計に基づいた製作を行う。 ・生徒同士の評価を行い、改善、裁定案をする。	
3 学期	1. 開発した製品を売り込むためのCMを作ろう。 2. 情報通信ネットワークの構成。	・iPadを用いてCM作りを行う。 ・情報通信ネットワークの仕組みについて知る。 ・Webの仕組みや情報セキュリティについて知る。	

第3学年 技術分野 (週1時間 ※)	教科書	開隆堂「技術・家庭 技術分野」
	副教材	プリント類

※ 家庭分野と合わせて1時間

学習到達目標

- ・エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫を知る。
- ・電気、運動、熱の特性等の原理・法則とエネルギーの変換や伝達等に関わる基礎的な技術の仕組みについて理解する。
- ・生活や社会における問題を解決するためのプログラムについて考える。
- ・エネルギー変換に関わる技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・動力伝達の機構の仕組みや簡単な電気回路の配線についての知識を身に付けている。 ・アルゴリズムや設計を基にしたプログラムを考えることができる。 	情報及びエネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取り、技術の見方・考え方に気付くことができる。	進んで情報及びエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。

学習方法

はんだ付け作業を行った基盤を使用して、プログラムの学習を行うことで、ブラックボックス化されている身近な機器へ理解を深めることを意識した授業を展開する。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<技術分野 週1時間 ※ 家庭分野も含む>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術を知る。 2. 電気回路を使った機器の製作をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・既製品から問題解決の工夫を読み取り、エネルギーの利用について知る。 ・様々なエネルギーが変換され活用されていることを知る。 ・電子部品の原理や取り扱い方を学ぶ。 	【評価の観点】 <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期考査 2. 製作・制作物 3. ノート 4. 平常点
2 学 期	1. 身の回りの機器について調べる。 2. 計測・制御するコンテンツをプログラムする。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムによる処理の自動化の仕組みを知る。 ・アクティビティ図やアルゴリズムを理解する。 ・プログラムソフトの使用方法を知る。 ・信号機のプログラムを制作する。 	
3 学 期	1. ネットワークを使用した双方向性のあるコンテンツをプログラムする。	<ul style="list-style-type: none"> ・操作性の観点からユーザインタフェースについて思考する。 ・設計に沿ったプログラムの制作を行う。 	

中学校技術・家庭科（家庭分野） シラバス

3年間のねらい、学習目標

生活に営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけようとする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見つけ出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族・家庭生活と地域の関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

第1学年	教科書	教育図書「技術・家庭 家庭分野」
家庭分野 (週1時間)	副教材	オリジナルプリント・家庭科ノート

学習到達目標

- 家族・地域に目を向け、将来について必要な能力を考える。
- 被服の働きと性質や取り扱いについて知り、カラーコーディネイトを考えて、個性をいかした被服の組み合わせ方を考える能力を身につける。
- 聖書・讃美歌バッグを作ることで基礎的な縫い方と用具の安全な取扱いを身につける。
- 住まいの様々な役割を理解し、災害などに備えた安全な住まいについて考え、自分らしい住まいをデザインする能力を身につける。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と家族や家庭生活のかかわりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解している。 ・縫い方について理解するとともに、用具を安全に取扱い、製作が適切にできる。 ・目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解し、日常着の適切な手入れができる。 ・生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。 ・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かにするための布を用いたものの制作計画や制作について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。 ・衣類の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方についての問題を見いだして課題を設定し、解決する力を身に付けている。 ・家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、考察したことを論理的に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かにするための布を用いた制作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・よりよい生活の実現に向けて、衣類の洗濯と手入れについて、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・家族や地域の人々と協働し、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

学習方法

オリジナルプリントとノートを中心とした授業で、知識を身に付け、自分自身で考えプリントに記入していく。衣服の働きを知り、快適でTPOに合わせた被服について考える。被服実習では聖書・讃美歌バッグを作り、基本的な裁縫技術を身につける。被服の手入れ方法について学び、長期休みには家庭で自分の洗濯物を行って手入れをする。衣服の選び方や修繕・リサイクルについても考える。

様々な住まいの働きについて学び、災害なども考え、安全で快適な住居をデザインする。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<家庭分野 週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 導入 私たちの家族・地域 2. 衣生活 ①衣服の働き 自分らしくコーディネート ②聖書・讃美歌バッグの作成 ③衣服の性質と手入れ ④洗濯をしてみよう	1. 知的好奇心の育成をはかる。 2. 被服 ・衣服の働きを学ぶ。 カラーコーディネートについて知り、TPOに合わせた服装を考える。 ・基礎的な縫い方を身につける。物を大切に作る心を育てる。 ・衣服の繊維の特徴を学ぶ。 洗剤の働きを学ぶ。 取り扱い絵表示を学ぶ。 ・夏休みに家庭で実際に洗濯を行い、授業で学んだことを活かす。	【評価の観点】 ・知識・技術 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 ・定期考査 ・製作・製作物 ・プリント・レポート ・平常点
2 学期	⑤衣類の快適な着方 ⑥衣服の入手計画と選び方 ⑦衣類の収納・保管 ⑧衣類の補修・リサイクル 3. 住生活 ①住まいの様々な役割 ②共に住まう ③家族の健康と室内環境 ④家庭内の安全 ⑤家庭の手入れ・ 大掃除をしてみよう	・季節や地域合わせた着方を学ぶ。 ・衣類の入手方法と選び方についてお互いに意見を交換する。 ・衣類の収納・保管方法について学ぶ。 ・衣類の補修・リサイクルについて考え、持続可能な社会を考える。 ・世界や日本各地の住居について知り、住まいの役割を学ぶ。 ・家族など一緒に住まうことについて考える。 ・家族が健康に過ごせる室内環境について学ぶ。 ・家庭内に潜む危険について考え、安全な住まいにする対策を考える。 ・家庭の手入れ方法について学び、実際に家庭で大掃除をして、掃除方法をまとめる。	

3 学 期	⑥災害への備え ⑦災害時の住まいと暮らし ⑧地域に配慮した住まい方 ⑨安全で快適な住まいをデザインする	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な過去の災害について学ぶ。 ・災害時に安全に暮らせるよう、事前の準備と、災害時の対策を学ぶ。 ・地域に配慮した住まい方を学ぶ。 ・学んだことを活かし、安全で自分らしい住まいをデザインする。 	
-------------	--	--	--

第2学年	教科書	教育図書「技術・家庭 家庭分野」
家庭分野 (週1時間)	副教材	オリジナルプリント・家庭科ノート

学習到達目標

- 食事の役割について学び、必要な栄養素を考え、バランスと彩りの良い献立を考えることが出来る。
- 調理実習を通して、安全を考えた、基礎的な調理方法を学ぶ。
- 消費者としての自覚を持ち、契約について学ぶ。
- 環境に配慮して、持続可能な社会について考え、自分のできるエコ生活について取り組むことが出来る。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に必要な栄養素の特徴が分かり、健康によい食習慣について理解している。 ・中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立について理解している。 ・食品や調理器具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。 ・消費者の基本的な権利と責任、自分や加増野消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食習慣について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、課題を解決する力を身に付けている。 ・中学生の1日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、解決する力を身に付けている。 ・日常の1食分の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について考える力を身に付けている。 ・自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして、解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の実現に向けて、食事の役割と中学生の栄養の特徴について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、実践しようとしている。 ・中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

学習方法

オリジナルプリントとノートを中心とした授業で、知識を身に付け、自分自身で考えプリントに記入していく。中学生が必要な栄養について学び、バランスが良く、彩りもよい献立を考える。調理実習では、班で協力して安全な調理法方法を学び、食事が栄養面だけでなくコミュニケーションについても大切なことを学ぶ。

契約について学び、安全な消費活動ができるように学ぶ。環境に配慮した持続可能な社会について学び、自分たちができることを探し、お互いに意見を出し合い、行動できるように話し合う。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<家庭分野 週1時間>

学	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
---	---------	--------------	-----------

期			
1 学 期	<p>1. 食生活</p> <p>①日本や世界の地域の食材と食文化</p> <p>②料理用語</p> <p>③食事の役割について</p> <p>④中学生に必要な栄養素</p> <p>⑤食事の計画・お弁当を考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地域の料理から食文化や気候を知り、食への興味関心を持つ。 ・料理用語から、調理への関心を持ち、知識を深める。 ・食事は栄養を取るだけでなく、コミュニケーションなど他の面も学ぶ。 ・5大栄養素とそれらがどのような食品に含まれているかを学ぶ。 ・6つの食品群をバランスよく取りつつ、彩りの良いお弁当を考える。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・製作・製作物 ・プリント・レポート ・平常点
2 学 期	<p>⑥食品が食卓にのぼるまで</p> <p>⑦生鮮食品の選び方</p> <p>⑧いろいろな加工品</p> <p>⑨食品の表示</p> <p>⑩食品の選択・購入と保存</p> <p>調理実習（2回）</p> <p>①調理の計画</p> <p>②調理の基本</p> <p>③盛り付けと片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食品が食卓にのぼるまで、どのように作られているのかを学ぶ。 ・新鮮でおいしい生鮮食品の選び方を学ぶ。 ・様々な加工品について学ぶ。 ・食品の表示を調べ、表示の意味を学ぶ。 ・食品の選び方・購入後の適切な保存方法を学ぶ ・安全で衛生的な調理方法について学び、班で協力して調理実習を行う。基本的な調理方法を身につける。 	
3 学 期	<p>2. 消費生活</p> <p>①消費生活の仕組み</p> <p>②商品購入のプロセス</p> <p>④購入方法と支払方法</p> <p>⑤契約と消費生活トラブル</p> <p>⑥消費者を支える仕組み</p> <p>⑦持続可能な社会を考えた自ら取り組むエコ活動の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての自覚を持ち、購入時の注意点や契約とは何かを学ぶ。 ・消費者トラブルに巻き込まれた場合の相談先や対応の仕方を身に着ける。 ・持続可能な社会についてできることを考え、実践できるエコ活動に取り組む。 	

第3学年	教科書	教育図書「技術・家庭 家庭分野」
家庭分野 (週1時間 ※)	副教材	オリジナルプリント・家庭科ノート

※ 技術分野と合わせて1時間

学習到達目標

- 乳幼児の発達していく様子を学び、発達を支えるための知識を身につけ、適切な働きかけやお世話の仕方を学ぶ。
- 幼児発達段階を学び、幼児の成長に欠かせない遊びの観点から、幼児の発達段階に合わせた適切なおもちゃを考え、安全面に配慮し制作する。
- 自分自身の成長には家族やそれを支える多くの人に支えられていることに気づき、人とのかかわりについて、これから自分自身ができることを考えていく。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
--	-------	----------	--------------

評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達と生活の特徴が分かり、子どもが育つ環境としての家族の役割、遊びの意義について理解している。 ・家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくすることができることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との関わり方について問題を見いだして課題を見つけ、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について課題を設定し、解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組み、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
------	---	--	---

学習方法

オリジナルプリントとノートを中心とした授業で、知識を身に付け、自分自身で考えプリントに記入していく。自分の成長について、家族の話を書くなどして、発達の様子を知る。赤ちゃん人形を使った保育実習では抱き方やおむつ交換などを行い、お世話の仕方を学ぶだけでなく、家族など多くの人の支えがあったことを考える。

幼児の発達段階を学び、遊びが欠かせないこととから、発達段階に合わせたおもちゃを考え、安全面を気を付けて制作を行う。

3年間の家庭科の学習から、衣食住など自分の成長には家族など多くの人の支えがあったことを振り返り、支えてくれた方への思い、これから自分自身ができることを考える。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 保育 ①自分の成長を振り返って ②乳児の特徴とかかわり方 ③幼児の体の発達 ④幼児の心の発達 ⑤幼児の身体の発達と家族の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が小さかったころの話を家族から聞き、成長の様子を知る。 ・赤ちゃん人形を使って、抱き方やおむつ交換などの実習を行う。 ・幼児の体の発達について学ぶ。 ・幼児の心の発達について学ぶ。 ・幼児の発達について、家族の役割の重要性を学ぶ。 	【評価の観点】 <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・製作・製作物
2学期	⑥子どもの成長と地域 ⑦幼児の遊びと発達 ⑧幼児の遊びを支える・幼児の発達段階に合わせたおもちゃを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの成長について、地域の役割の重要性を学ぶ。 ・幼児は遊びを通して発達するので遊びの重要性を学ぶ。 ・幼児の発達段階を知り、発達段階に合わせた安全なおもちゃを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント・レポート ・平常点
3学期	2. 家族・家庭 ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を生かし、自分の成長や生活は家族やそれに関わる人に支えられていることに気づき、人とかかわりについてこれから自分で工夫できることをまとめる。 	

中学校 聖書科 シラバス

3年間のねらい、学習目標

同志社の建学の精神であるキリスト教主義と創立者新島襄の思想を学び、キリスト教主義による世界観・人間観・生命観を基礎にしなが、創立者の言葉「良心の全身に充満した丈夫（ますらお：若者）」として成長することを目指す。

そのために3年間を通して、創立者の生涯、聖書とイエス・キリストについて、現代社会の諸問題と関連付けながら学ぶ。それにより、一人一人の個性と尊厳を大切にしながら、自分も他者も愛し、日々の生活を喜びあるものにする力を養成する。

第1学年 聖書 (週1時間)	教科書	なし
	副教材	新島襄への扉編集委員会編『新島襄への扉-真誠の自由を求めて』 富田正樹『キリスト教資料集』 富田正樹『信じる気持ち』 以上、日本キリスト教団出版局 『聖書 新共同訳』日本聖書協会

学習到達目標

創立者・新島襄の生涯と同志社創立の経緯の主な出来事、キリスト教についての基礎知識を、同志社人の「入門」として学ぶ。3年ないし6年を同志社で学ぶにあたり、何を大切にして学校生活を送るか、どのような成長を目指すか、それぞれに模索する機会とする。また、創立者と学校の歴史や、キリスト教精神を通して、これからの人生を生きてゆくためのものの考え方の基礎を育成する。それらを、一つの正解を強要するのではなく、生徒個々人の自由な意見を尊重しながら引き出すことを目標とする。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	創立者や学校の歴史、キリスト教についての知識を身に付け、それを自分の問題として考えることができる。	創立者や学校の歴史、キリスト教の教えを通して自分自身について深く考え、これからの自分の生き方に引き付けた上で、意見や問いを分かりやすく他者と共有することができる。	創立者や学校の歴史、キリスト教に対して深く関心を寄せ、それらを通じて自分のこれからの人生や学校生活に活かそうとすることができる。

学習方法

教科書に従って、新島襄の生涯と同志社創立の経緯を学んでいく。単に歴史的な知識として学ぶだけでなく、自らの生き方を重ねて考える機会となるように授業を進める。また、初めてのキリスト教の礼拝を経験する生徒の為に、賛美歌の練習や主の祈りの暗誦、自分でお祈りを作ってみるなどの作業も経験する。

期末考査による評価に加え、キリスト教会の礼拝に参加して報告する「教会探検隊」(教会レポート)、自由提出で学校礼拝の感想を書く「礼拝レポート」など、多面的に評価する。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

(週1時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 導入：学校礼拝入門	1. 学校礼拝・礼拝堂への関心を高める。 2. 聖書・賛美歌・祈り・教会といったキリスト教の基礎を理解する。 3. 礼儀と敬意を払う態度を身につける。	【評価の観点】 ・創立者や学校の歴史、キリスト教への関心・意欲・態度 ・創立者、同志社、キリスト教についての最低限の

	2. 創立者の精神を学ぶ①	1. 新島襄の誕生・幼年時代 2. 少年時代 3. 青年時代 4. 函館時代	知識 ・教科書から読み取る力 ・自分なりの問いを見付けだす力 ・学習内容を通じて自分自身を見つめる 【評価方法】 1, 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解を深めることができたかを問う。 2, 平常点 (1)授業への関心・態度 (2)課題などの提出状況 (3)教会探検隊、礼拝レポート
2 学期	3. 創立者の精神を学ぶ②	5. 洋上生活 6. ボストン上陸 7. フィリップス・アカデミー時代 8. アーモスト大学時代 9. アンダーヴァ神学校時代 10. 宣教師として日本へ	
3 学期	4. 創立者の精神を学ぶ③	11. 帰国・学校設立に向けて 12. 同志社英学校開校 13. 同志社女学校開校 14. 熊本バンド 15. 晩年・永眠	

第2学年 聖書 (週1時間)	教科書	なし
	副教材	『聖書 新共同訳』日本聖書協会 富田正樹『キリスト教資料集』日本キリスト教団出版局

学習到達目標

建学の精神であるキリスト教の正典である新旧2つの聖書のうち、旧約聖書の全体的な流れを理解し、基礎的な知識を学ぶことと、登場人物の言動を通して自分を見つめることを目標とする。

特にこの旧約聖書は、キリスト教だけではなくユダヤ教の正典でもあり、イスラームにも大きな影響を与えている、世界の人類に最も広範囲な影響を与えた書物である。その書物について学ぶことで、国際的な視野を養い、現在の世界における諸問題を歴史・宗教などの側面から深く理解し、自らの観点からの考え方を養う機会とする。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	旧約聖書についての知識を身に付け、それを自分の問題として考えることができる。	聖書や礼拝メッセージを通して、自分自身と向き合って深く共感したり、想像したりする力を十分に身につけ、他者に自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができる。	興味を持って聖書や礼拝に親しみ、聖書の言葉や礼拝メッセージを通して自分や社会を深く見つめることができる。またそれを日常生活に活かすことができる。

学習方法

主に旧約聖書の物語的な要素の強い、「創世記」「出エジプト記」から題材を取る。聖書そのものを読む一方で、資料集や適宜配布資料を用いながら、一つにつながったストーリーとして理解しやすい形で学習を進める。

基本的には教室での講義が中心となるが、随時必要に応じて、プリント、プレゼンなどを活用した教材を用いる。

主に期末考査によって評価する。と同時に、適宜自分の感想や自分を見つめ直す小レポートを課す。また、中学1年生で行ったのと同様、町中にある教会の礼拝を訪問して報告する「教会探検隊」(教会訪問レポート)、自由提出で学校礼拝の感想を書く「礼拝レポート」などを継続し、多面的に評価することとする。

年間シラバス (1年間の学習予定表) (週1時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 導入： 旧約聖書の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中には、どのような宗教があり、宗教の定義とは何かを考える。 ・同志社の根底にあるキリスト教の正典である、聖書の成り立ちや仕組みを知る。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖書への関心・意欲・態度 ・読む力 ・聖書についての最低限の知識 ・聖書の教えを通して、自分自身を見つめる <p>【評価方法】</p> <p>1, 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や、登場人物の気持ちや、神話を通して自分や隣人と向き合い、人間についての理解を深めることができたかを問う。</p> <p>2, 平常点 (1)授業への関心・態度 (2)課題などの提出状況 (3)教会探検隊、礼拝レポート</p>
	2. 創世記の神話の物語 (前編：原初史)	<ul style="list-style-type: none"> ・「天地創造」「アダムとエバ」「カインとアベル」「ノアの箱船」の神話を読み、言葉の力を感じたり、登場人物と自分や自分の隣人との関係を照らし合わせたりしながら、人間観を深めてゆく。 	
2 学期	3. 創世記の神話の物語 (後編：族長物語)	<ul style="list-style-type: none"> ・アブラハムから続く古代のイスラエル民族の歴史に親しむ。 ・族長物語をドラマとして楽しむと同時に、登場人物を参考にしながら、自分の生き方や社会のあり方についての考察を深める。 	
3 学期	4. 出エジプト記の物語 (モーセ物語)	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラエル民族がエジプトでどのような立場に置かれていたのかを歴史的に知る。 ・モーセ物語をドラマとして楽しむと同時に、登場人物を参考にしながら、自分の生き方や社会のあり方、宗教のあり方についての考察を深める。 ・「十戒」に込められた神の意図を考える。 ・モーセの人生を通して、「信仰」について考える。 	

第3学年	教科書	なし
	副教材	『聖書 新共同訳』日本聖書協会 富田正樹『キリスト教資料集』 日本キリスト教団出版局

学習到達目標

キリスト教の正典の1つである新約聖書の全体的な流れを理解し、基礎的な知識を学ぶ。

新約聖書は、キリスト教徒のみならず、世界中の文化にも大きな影響を与えているイエス・キリストの生涯と言葉を収めている。そのような書物について学ぶ事で、現在の世界における諸問題を深く理解すると共に、イエスからの問いかけを自分なりに受け止め、自らの生き方を考える機会とする。

この授業により、同志社の建学の精神についての3年間のごく基礎的な学習が完結する。

学習方法

新約聖書の中でも、特に「福音書」を通し、もっぱらイエス・キリストについて学ぶ。聖書そのものを読む一方で、資料集や適宜配布資料を用いながら、キリストの誕生・生涯・死・復活を、一つにつながったストーリーとして理解しやすい形で学習を進める。

基本的には教室での講義が中心となるが、随時必要に応じて、プリント、プレゼンなどを活用した教材を用いる。

主に期末考査によって評価する。と同時に、適宜自分の感想や自分を見つめ直す小レポートを課す。また、中学1年生で行ったのと同様、町中にある教会の礼拝を訪問して報告する「教会探検隊」(教会訪問レポート)、自由提出で学校礼拝の感想を書く「礼拝レポート」などを継続し、多面的に評価することとする。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	新約聖書についての知識を身に付け、それを自分の問題として考えることができる。	聖書や礼拝メッセージを通して、自分自身と向き合って深く共感したり、想像したりする力を十分に身につけ、他者に自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができる。	興味を持って聖書や礼拝に親しみ、聖書の言葉や礼拝メッセージを通して自分や社会を深く見つめることができる。またそれを日常生活に活かすことができる。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

(週1時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 導入：新約聖書の世界 2. イエスの宣教活動	<ul style="list-style-type: none"> 旧約聖書と新約聖書のつながりを知る。 新約聖書の区分・目次と概要を知る。 イエスの誕生(クリスマス物語)を読む。 洗礼者ヨハネによる洗礼物語を読み、イエスの公生涯の始まりについて知る。 荒野での誘惑と弟子の選びを通して、人生を変える出会いについて考える。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 聖書への関心・意欲・態度 読む力 聖書についての最低限の知識 聖書の教えを通して、自分自身を見つめる
2学期	3. イエスの教え	<ul style="list-style-type: none"> イエスの行った奇跡の物語(病気治し、5000人の給食など)を読み、人間が求める根源的なものについて、また食することについての大切さを考える。 イエスの語った有名な言葉(山上の説教など)を読み、自分の生き方について考える。 イエスの語ったたとえ話(放蕩息子、善いサマリア人など)を読み、自分の生き方について考える。 	<p>【評価方法】</p> <p>1, 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や、登場人物の気持ちや神話を通して自分や隣人と向き合い、人間についての理解を深めることができたかを問う。</p> <p>2, 平常点 (1)授業への関心・態度 (2)課題などの提出状況 (3)教会探検隊、礼拝レポート</p>
3学期	4. 十字架と復活	<ul style="list-style-type: none"> 最後の晩餐とゲツセマネの祈りの部分を読み、人間の運命と神とのかかわりについて考える。 イエスの十字架の死についての物語を読み、今の時代の人にも大きな影響を与えるキリストの死の意味について思いをはせる。 復活の意味を考え、イエス以後のキリスト教会についての基礎的な知識を得る。 	

中学校 リベルタス（総合的な学習の時間）シラバス

3年間のねらい、学習目標

21世紀を生きる子どもたちに求められているものは何であろうか。例えば、2015年に国連で採択されたいわゆる「持続可能な開発目標（SDGs）」では、貧困や紛争を無くすこと、気候変動への対応や資源の確保のほか、人々の健康・福祉・教育・平等・パートナーシップ等々、2030年までに達成すべき具体的な目標が掲げられている。これらの解決のためには国際機関、政府、企業、学術機関、市民社会、子どもも含めたすべての人が対話を通じて利害関係を調整し、それぞれの立場から「持続可能な世界」の実現のために行動することが求められている。そのためには自分自身や社会の現状を知ることからはじめ、他者や他地域への理解や関心を深めるとともに、自分の思いや考えを正確に表現する力を養うことが肝要である。そして自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、対話を通してよりよく問題を解決する資質や能力を身につけるために、知識の獲得はもちろんのこと、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力等の育成も必要不可欠である。一方、「人生100年時代」を見据えて、いつでも「学び直し」をしようとする意欲、主体的に学ぶ姿勢を身につけることも求められている。

総合的な学習の時間においては、他者とのかかわりのなかで積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢や、自らの考えを的確にかつ共感的に受け止められるように表現する技能を身につけることを目標とする。3年間のさまざまなアクティビティを通して自己肯定感を養い、未来や社会に対する能動的な考え方を得ることを目指す。

第1学年	教科書	なし
総合的な学習の時間 (週2時間 ※)	副教材	ENAGEED vol.1~7

※ 帯の時間を含む

学習到達目標

- ・様々な事への興味関心を育むと共に、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ・自分の意見や考えを自由に発信できるようになる。
- ・身の回りの問題や課題を自分との関わりの中で積極的にとらえられるようになる。

学習方法

ENAGEED vol.1~7の教材を使用し、自分の考えや意見をまとめる。その後、クラス内にてグループワークを行い、他者の考えや意見を聞き、取り入れる事によって、自分の視野や価値観の幅を広げる。

校外学習等を通して、自らのキャリアについて考える。

年間シラバス（1年間の学習予定表）

<週2時間 ※ 帯の時間を含む>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 次世代スキル (vol.1)	≪学習のポイント≫ 未来、社会に対する能動的な考え方を得るために、自分の力で身の回りの問題を解決できることを理解する。 ≪到達目標≫ 気づく力→発案する力→実現する力の構造を理解することができる。	・社会や将来に対する関心・意欲 ・積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢 ・自らの考えを表現する姿勢・技能
	2. 社会 (vol.2)	≪学習のポイント≫ これからの時代に求められる「価値」の考え方を学ぶ。 ≪到達目標≫ 仕事が生む価値・感情を理解することができる。	

2 学 期	1. 未来 (vol.3)	<p>《学習のポイント》将来を想定し、「できない理由」ではなく、「できる理由」を発見することの重要性を学ぶ。</p> <p>《到達目標》逆算思考について学ぶ。</p>
	2. 海外 (vol.4)	<p>《学習のポイント》「ゼロから1を生むワーク」を通じ、国境を越えて活躍する可能性を理解する。</p> <p>《到達目標》グローバルマインドを持つことができる。</p>
	3. 他者視点 (vol.5)	<p>《学習のポイント》立場が変わると様々な問題を見つけられるということを想定し、自身の解決策の幅を広げる。</p> <p>《到達目標》他者の視点で物事を考えることができる。</p>
3 学 期	1. 挑戦 (vol.6)	<p>《学習のポイント》「壁」に対する考え方を見直すことで、物事に対してのとらえ方を変えることができ、挑戦へのハードルが下がることを理解する。</p> <p>《到達目標》挑戦へのヒントを見つけることができる。</p>
	2. 目的意識 (vol.7)	<p>《学習のポイント》「自分が選んだ道を正解にする力」を身につけるために、目的意識を持つことの重要性を理解する。</p> <p>《到達目標》中学生活の中で自分が何をしたいのか、学びたいのかが分かる。</p>

第2学年 総合的な学習の時間 (週2時間 ※)	教科書	なし
	副教材	浜島書店 『国語便覧 (大阪府版)』

※ 帯の時間を含む

学習到達目標

中学1年生で身につけた基礎的な表現力をもとに、さらに発展的な表現力を身につける。特に事実と意見を区別する作業を重視し、与えられた材料について、自分の意見をまとめる力を育てる。また、レポート・壁新聞・スライド等の作成を通して、情報発信のさまざまな方法を習得する。

評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
評価 規 準	<p>図書やインターネットを使って調査をする方法や、調査結果を提示するのにふさわしい図表の使い方、引用の仕方を理解し、それらを適切に利用することができる。</p>	<p>調査結果から考察を導き出し、自分の意見としてまとめることができる。また、他者に伝わりやすいように論理立てて説明する文章を書ける力が身に付いている。</p>	<p>自らが立てた問いについて深く追究して調査をすることができる。また、発表において聞き手に伝わりやすいよう工夫したり、他者の意見を積極的に聞いたりする姿勢を持っている。</p>

学習方法

1学期は、修学旅行の事前学習としてレポートを作成することで、資料検索の方法や資料の整理の仕方、レポートのまとめ方について学ぶ。2学期は、壁新聞等によって修学旅行の報告を行い、発表の仕方を学

ぶ。3学期は、1・2学期に学んだ調査方法・発表方法のスキルを活かして、自由に設定したテーマについて調査・発表を行い、レポートの作成とスライド等を使っての発表をし、高校の探究学習へとつながる力を養う。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間 ※ 帯の時間を含む>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 文章の書き方・引用の仕方 2. 情報整理 3. 修学旅行の事前学習レポート	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章の書き方や、引用の仕方、出典の示し方などを学ぶ。 図やグラフの情報を正確に読み取る。 読み取った情報を分析し、文章にまとめる。 修学旅行の事前学習として、興味のあるテーマを各自で設定する。 図書館での情報収集の方法を学ぶ。 インターネットの適切な使い方を学ぶ。 レポートの形式を学習する。 調べたことを整理し、読み手にわかりやすいように工夫してまとめる。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前学習レポート その他の提出物や授業態度等
2 学期	1. 意見文 2. 修学旅行の報告作成 3. テーマ設定	<ul style="list-style-type: none"> 事実と意見を分けて整理する。 根拠を明確にし、説得力のある意見文を書く。 修学旅行で見聞したことを、壁新聞等で、読み手に伝わるようにわかりやすくまとめる。 効果的な見出しの付け方を学習する。 内容だけでなく、レイアウトも工夫する。 3学期に調査・発表をする研究のテーマを各自で設定する。 設定したテーマへのアプローチの方法を模索する。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 壁新聞等 その他の提出物や授業態度等
3 学期	1. 調査・研究 2. 発表	<ul style="list-style-type: none"> 設定したテーマについて、資料を検索したりデータを取ったりして調査する。 調査の結果をレポートにまとめるとともに、発表用にスライドを作成する。 聞き手に伝わりやすい話し方を心がけて発表をする。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> レポート 発表 その他の提出物や授業態度等

第3学年 総合的な学習の時間 (週2時間 ※)	教科書	なし
	副教材	『進路サポート』(ベネッセ) など

※ 帯の時間を含む

学習到達目標

探究的な見方・考え方を働かせ、職業や自己の将来に関する課題について、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、職業や自己の将来に関する課題の解決に必要な知識と技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	職業や自己の将来に関する課題の解決に必要な知識と技能を身に付け、課題に関わる概念を形成することができる。	実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	①探究的な学習に主体的・協働的に取り組むことができる。 ②自身の長所を生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度が身につけている。

学習方法

- (1) 自分のこととして、関心を持つ。
 - ① 授業のトピックスには、あなた自身が今現在関心を持っていることも、そうでないこともある。自分自身であれば、どのような切り口で扱われているテーマに関わろうとするか、自分のこととして、捉えてみるのが大切。
 - ② あなたのオリジナリティを見つけることが大切です。自分ならではの疑問点、他人が気づかないことで自分が気づいていることは何か、見極めてみるのが大切です。
- (2) 一生懸命提出物に取り組む。
この科目では、課題への取り組みがとりわけ重視され、成績評価の中でも重きを置かれます。定期考査は行いませんので、ワークシート、レポートなどに真剣に取り組む、確実に提出してください。

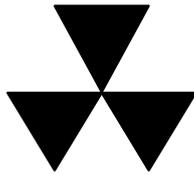
年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間 ※ 帯の時間を含む>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	・職業適性検査 ・進路サポートワークブック ・社会人講師による職業講和	ア. 職業や自己の将来に関する課題の解決に必要な知識を身につけることができる。 ア. 職業や自己の将来に関する課題について、調べるための技能を身につけることができる。	【評価の観点】 ・職業や自己の将来の課題に関する知識・理解 ・職業や自己の将来の課題に関して理解・解釈するための技能 ・職業や自己の将来の課題についての思考・判断・表現 ・職業や自己の将来の課題に関する学習に主体的に取り組む、学んだことから主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕
2 学期	・ワークショップ ・レポート作成 ・私の未来の仕事コンテストへの応募	ア. 職業や自己の将来について、学んだ事柄をもとに、課題に関わる概念を形成することができる。 イ. 職業や自己の将来に関する課題について、実社会や実生活の中から問題点を見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	
3 学期	など	ウ. 職業や自己の将来に関する課題について、探究的な学習に主体的・協働的に取り組むことができる。	

		<p>ウ. 自身の長所を生かしながら,積極的に社会に参画しようとする態度が身につけている。</p>	<p>1. 学習態度等の平常点 (1) 個人・グループワークへの取り組み, 発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2) レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)・(2)のいずれか、あるいは両方を総合的に評価する。(定期考査は原則実施しない。)</p>
--	--	---	--

※学習内容・項目はあくまでも例示であり、生徒の関心、担当する教員の招へいする社会人講師が活躍している分野などにより、その都度変更する。



Doshisha Kori Jr. & Sr. High School

同志社香里中学校・高等学校

〒572-8585 大阪府寝屋川市三井南町 15-1

TEL 072-831-0285 FAX 072-834-3750

<https://www.kori.doshisha.ac.jp>

(2022年3月作成)